

1. 施策の概要

施策シート【23_01】

観光にぎわい部、土木部

施策名称		里山など豊かな自然空間の保全・継承			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	23.豊かな自然環境を大切にするまち			
めざす姿（主観的満足度）		里山や農地などの豊かな自然環境が保全されている			
概要		里山など豊かな自然空間の保全・継承を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
		1. 里山の保全			
	R7年度				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.3%】

- ・年代別では、50歳台が最も高く、47.7%である。最も低いのは、19歳以下で6.3%であった。
- ・東部地域に居住している人の56.0%が自然環境に満足している。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、自然環境の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、5.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、「1. 里山の保全」は計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「森林ボランティア育成講座修了者数（累計）」が未達成だが、目標には近づいている。それ以外の指標については、指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 里山の保全

取り組みの内容	R6年度	担当課
・里山講座（森林ボランティア育成事業）の開催。 ・里山保全活動の推進。	・里山講座の開催 ・竹林整備・植物観察会（春・秋）等の開催 ・里山保全活動8団体が実施する東部地域の里山保全活動を支援	農業振興課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
これまでの取組を継続して実施するとともに、持続的な里山保全の担い手の確保に向けて、若い世代へのアプローチ手法を検討する。ローカル10,000プロジェクトとの連携により、担い手の確保を目指す。	里山講座や植物観察会（春・秋）の開催など、里山の自然や保全活動に触れる機会を設けた。また、申請のあった保全活動団体4団体に対して支援。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
森林ボランティア育成講座修了者数（累計）	森林ボランティア育成講座の受講者のうち規定の日数に出席し修了証を取得した人数（累計）	430	人	農業振興課	1. 里山保全事業
各年度の実績		416	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の里山講座の受講者が7名と少なく、修了証を取得した人数は目標の20人に対して6人となった。なお、累計には、森林スペシャリスト育成講座(H30～R2)の修了者数を含んでいる。					
里山保全活動団体の活動日数（累計）	東部地域で活動する里山保全活動団体の年間活動日数（累計）	4,600	日	農業振興課	1. 里山保全事業
各年度の実績		4,736	日	備考	
【施策指標の分析 R6】 里山保全活動補助金の実績報告により把握。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
緑地面積	都市公園やそれに準じる施設、緑地保全地域などの法律や条例などで土地利用を管理して確保する緑地など、将来にわたって確保される可能性の高い担保性のある緑地面積	1,529	ha	公園みどり課	-
各年度の実績		1,532	ha	備考	
【施策指標の分析 R6】 生産緑地が過年度より増加していた。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

里山や農地などの豊かな自然環境が保全されている

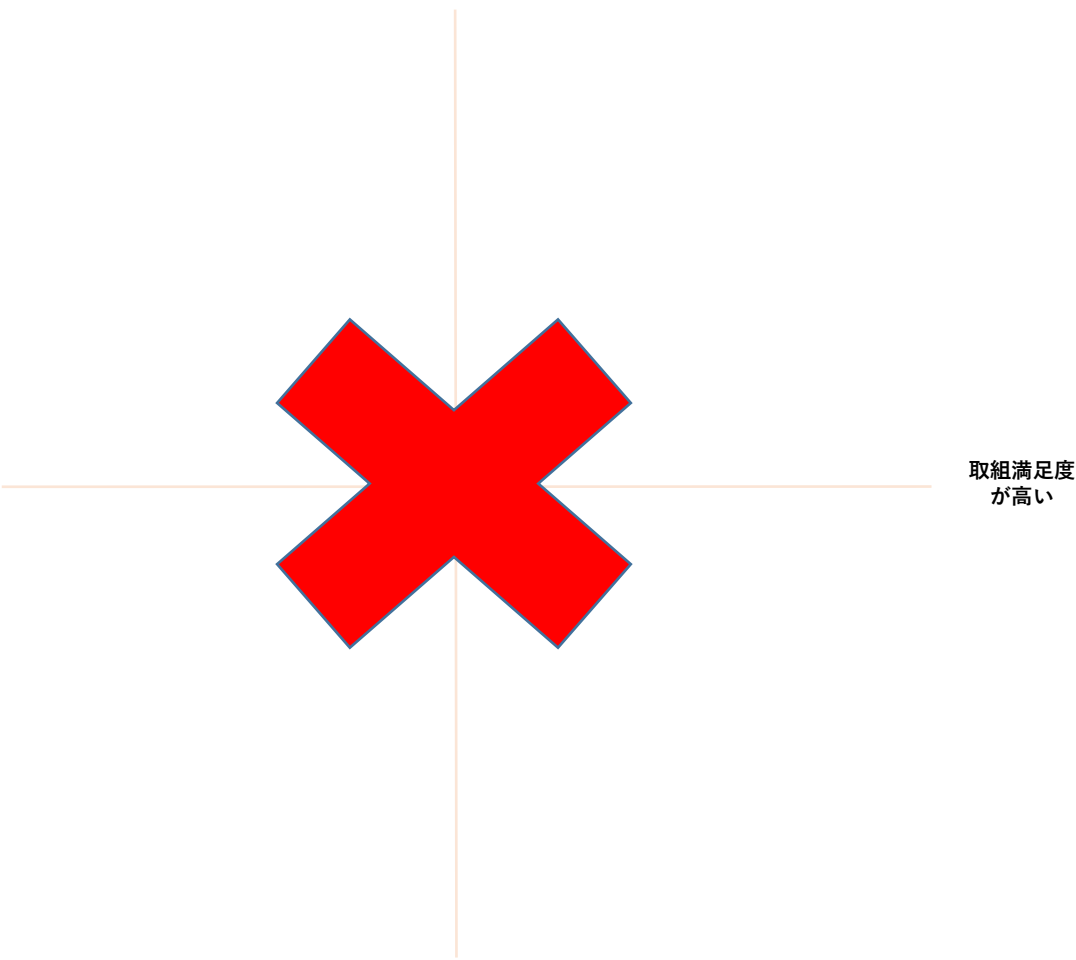
23_01 里山など豊かな自然空間の
保全・継承

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.3%	15.8%	45.8%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
56.0%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・里山の保全

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・ 施策の方向性としては、里山など豊かな自然空間の保全・継承を図るため、課題にもあるように若者世代（24歳以下）をはじめとする全ての世代に対してPRと取り組みへの参加促進などを積極的に行っていく。

1. 施策の概要

施策シート【24_01】

土木部

施策名称		自然とふれあい親しめる場の確保			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	24.まちなかのみどりを育てるまち			
めざす姿（主観的満足度）		普段の生活の中でみどりとふれあえる			
概要		自然とふれあい親しめる場の確保を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	1. 子どもがワクワクするような公園の整備 ○計画策定				

1. 子どもがフクフクするような公園の整備
○計画策定

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度61.7%】

- ・年代別では、70歳台が最も高く、68.4%である。最も低いのは、19歳以下で37.5%であった。
- ・身近にみどりとふれあう環境がある人の73.2%がみどりとふれあえる環境に満足している。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、みどりとふれあえる環境の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、「1. 子どもがワクワクするような公園の整備」は、次年度以降の整備に向けて計画策定・設計等を実施できた。

【施策指標】

- ・「親子で楽しめる遊び場等のある公園の整備数」の次年度以降の指標達成に向けた取り組みとなっている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 子どもがワクワクするような公園の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
公園に幼児用遊具や休憩施設等を設置し、親子が安全で落ち着いて遊べる空間づくりを推進。	・利用者ニーズの把握、遊具整備に向けた計画策定 ・設計 ・連携事業の検討	公園みどり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
主な利用者となる未就学児の保護者や小学生に加え一般市民も含めたアンケート調査を行い、ニーズを把握行った。結果に基づき、遊具、バリアフリートイレ、休憩施設等を順次、整備していく。	・利用者ニーズの把握、遊具整備に向けた計画策定 ・設計 ・連携事業の検討	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
親子で楽しめる遊び場等のある公園の整備数	公園整備数	0	公園	公園みどり課	1. 公園への幼児や親子が遊べる遊具等の設置
各年度の実績		0	公園	備考	
【施策指標の分析 R6】 今年度は、次年度以降の整備に向けて、計画策定・設計等を行った。 来年度以降は、整備（設計・工事）に取り組んでいく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

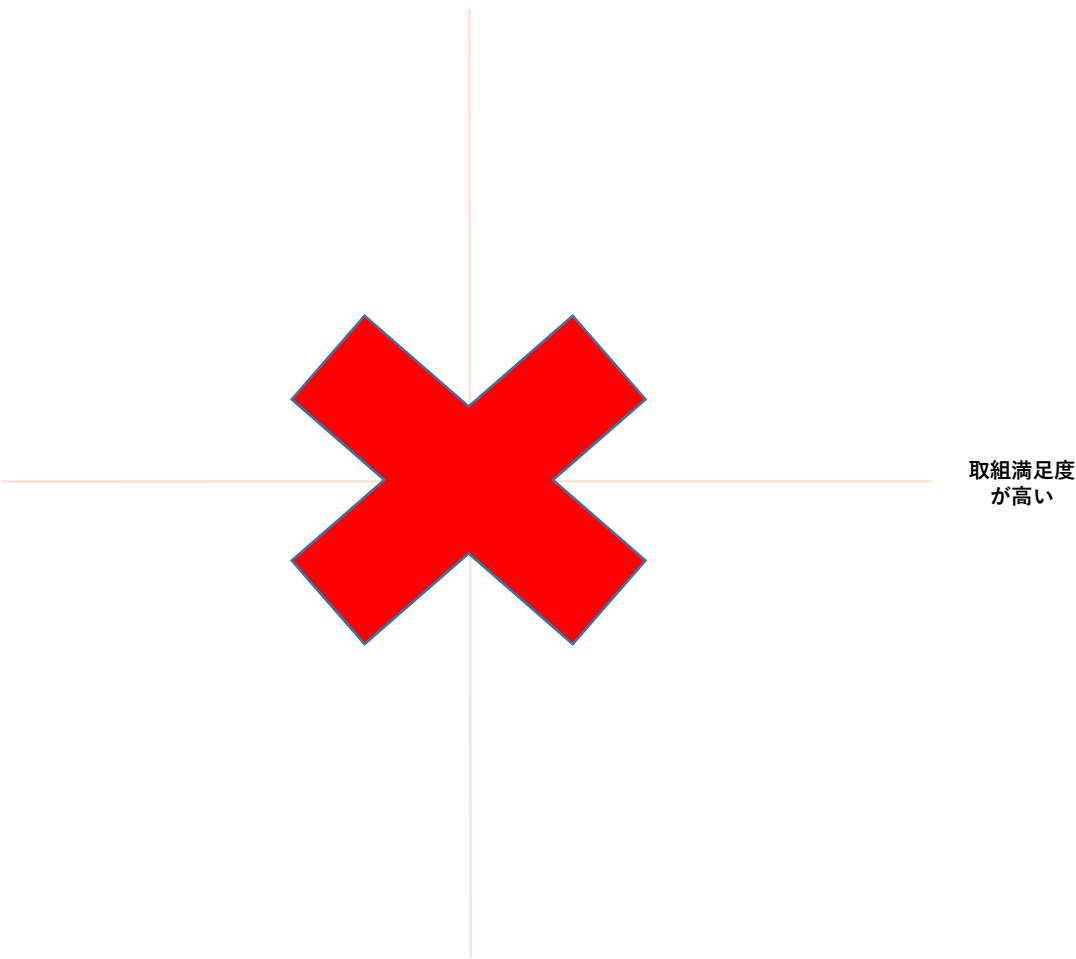
普段の生活の中でみどりとふれあえる
24_01 自然とふれあい親しめる場
の確保

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
61.7%	14.9%	23.4%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
40.1%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※事業未着手及び検討段階の取り組みであり、取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・子どもがワクワクするような公園の整備

5. 評価を踏まえた今後の方向性

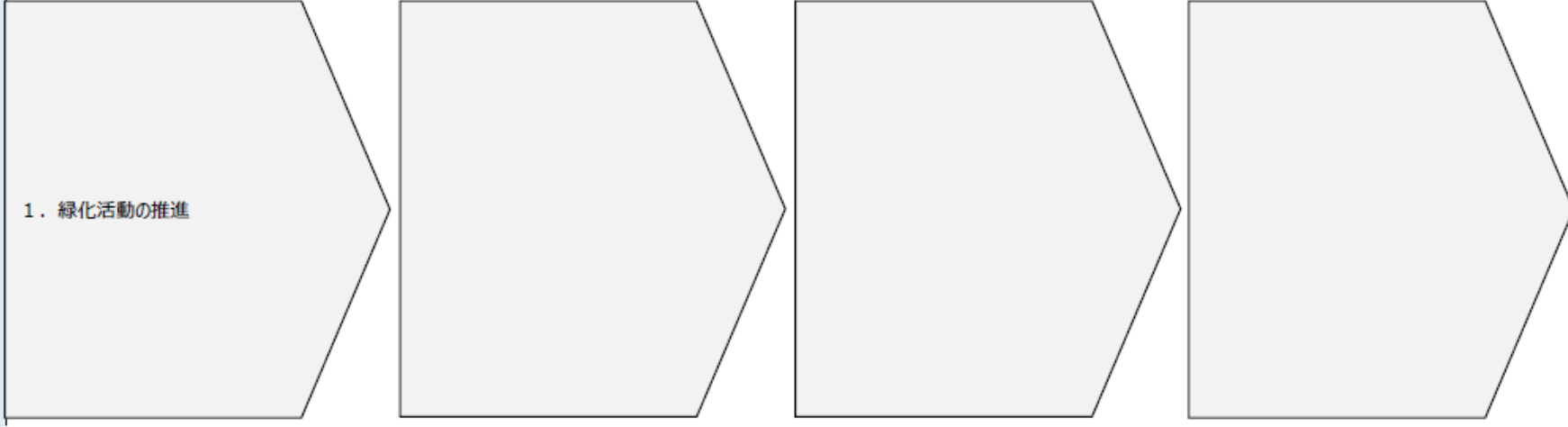
今後の方向性

- ・施策の方向性としては、子ども子育て世帯等が自然とふれあい親しめる場の確保のため、当事者のニーズ調査をもとに工事を行っていく必要がある。

1. 施策の概要

施策シート【24-02】

土木部

施策名称		緑化活動の活性化			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	24.まちなかのみどりを育てるまち			
めざす姿（主観的満足度）		普段の生活の中でみどりとふれあえる			
概要		まちなかのみどりや、子育て世帯など幅広い世帯の人々にとっての憩い野場となる公園、河川敷などの緑地空間を守る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
					

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度61.7%】

- ・年代別では、70歳台が最も高く、68.4%である。最も低いのは、19歳以下で37.5%であった。
- ・身近にみどりとふれあう環境がある人の73.2%がみどりとふれあえる環境に満足している。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、みどりとふれあえる環境の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては「1. 緑化活動の推進」は計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、測定が可能な指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 緑化活動の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
緑化活動の推進	公共・公益施設整備基準で定められている基準等に基づき協議を実施	公園みどり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
多くの市民の目に触れる位置にみどりを配置するなど、効率的な緑化を積極的に取り組む。	緑地面積は過年度より増加した。今後も緑化推進を継続して取り組む。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
緑地面積	都市公園やそれに準じる施設、緑地保全地域などの法律や条例などで土地利用を管理して確保する緑地など、将来にわたって確保される可能性の高い担保性のある緑地面積	1,529	ha	公園みどり課	1. 緑化活動の推進
各年度の実績		1,532	ha	備考	
【施策指標の分析 R6】 生産緑地が過年度より増加していた。					
【施策指標の分析 R7】					
【施策指標の分析 R8】					
【施策指標の分析 R9】					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
各年度における街路樹延長距離	市道の緑化済道路延長距離	0	m	道路河川整備課	-
各年度の実績		0	m	備考	
【施策指標の分析 R6】 都市計画道路整備による街路樹の設置がなかった。					
【施策指標の分析 R7】					
【施策指標の分析 R8】					
【施策指標の分析 R9】					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

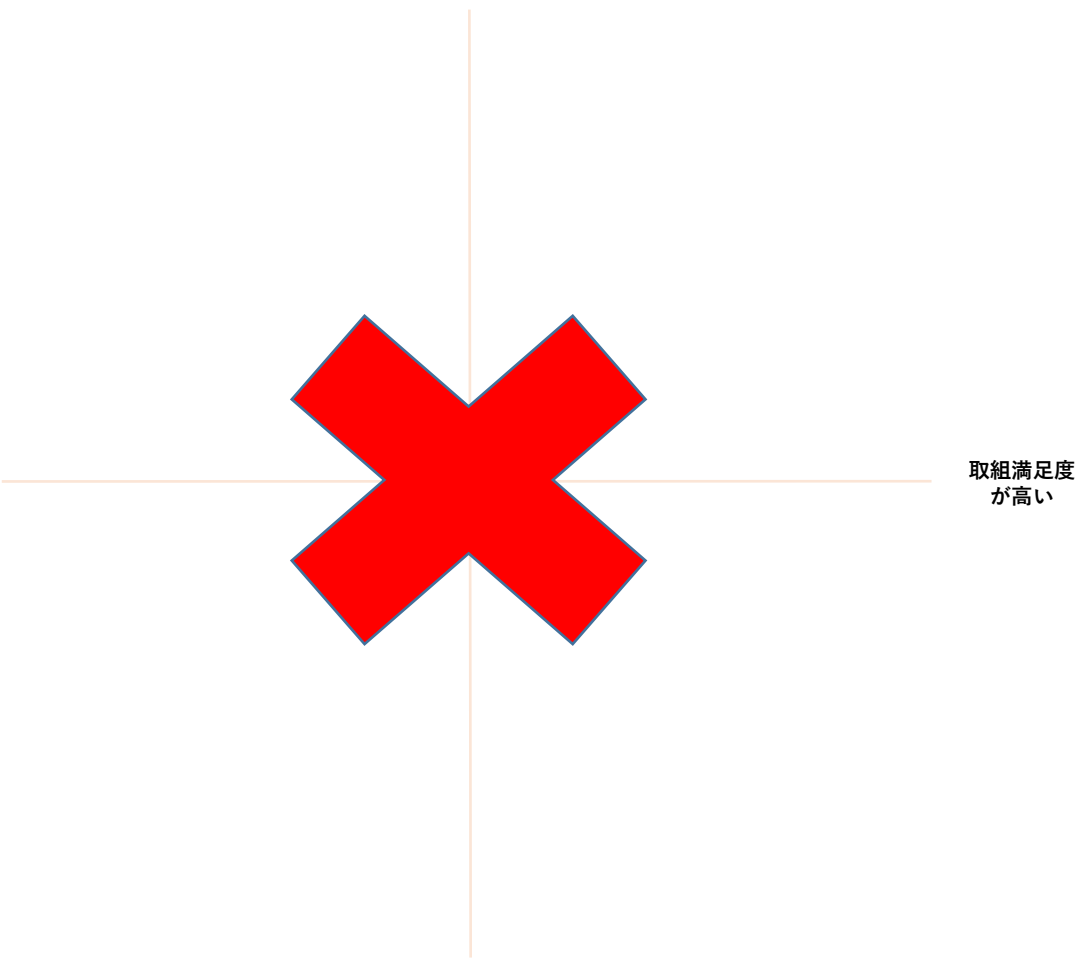
普段の生活の中でみどりとふれあえる
24_02 緑化活動の活性化

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
61.7%	14.9%	23.4%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
40.1%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・緑化活動の推進

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策の方向性としては、まちなかのみどりや、子育て世帯など幅広い世帯の人々にとっての憩いの場となる公園、河川敷などの緑地空間を守るため、引き続き取り組みを進めていく。

1. 施策の概要

施策シート【25_01】

環境部

施策名称		ごみ発生抑制を最優先にした4 Rの推進						
総合計画体系		基本目標等 施策目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち 25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち					
めざす姿（主観的満足度）		ごみ減量や資源循環が進んでいる						
概要		循環型社会の形成に向け、ごみの発生抑制に取り組みます。						
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		R9年度		
	1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定 2. 4 R活動の推進 ○家庭用生ごみ処理機制度設計・実施 3. 効率的なごみ収集処理の推進 4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化 5. D X等によるごみ収集の最適化		1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定 ○次期基本計画の策定 4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化 ○事業系ごみ処理手数料を120円/10kgから150円/10kgに改定		2. 4 R活動の推進 ○リユース事業の本格実施 ○給水スポットの設置		5. D X等によるごみ収集の最適化 ○運行管理システム本格導入	

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度40.9%】

- ・年代別では、80歳以上が最も高く、54.4%である。最も低いのは、30歳台で32.5%であった。
- ・就業状況が自営業の人の68.4%がごみ減量や自然循環に対して満足と感じている。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、ごみ減量や自然循環への満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.1ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、6割の取り組みが計画通りに進めることができ、「1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定」、「2. 4 R活動の推進」が一部未達成であるものの、概ね達成できている。「5. DX等によるごみ収集の最適化」は令和7年度から実施する取り組みである。

【施策指標】

- ・「ごみの資源化率」については未達成だが、それ以外の指標については、指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定

取り組みの内容	R6年度	担当課
次期一般廃棄物処理基本計画を策定し、資源循環施策を推進。	次期基本計画に盛り込む施策等の検討	循環型社会推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・次期計画では、新たに食品ロス削減の関する事項や製品プラスチックの分別収集及び再商品化の取り組みに関する事項等を充実する必要がある。 ・次年度は廃棄物減量等推進審議会への諮問を行い、検討を進めていく。	次期基本計画に盛り込む施策等について、調査研究を行い検討を進めた。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

2. 4 R活動の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
・事業者と連携することにより、食品を必要とする団体等に無償で譲渡するフードドライブを実施。 ・家庭用電気式生ごみ処理機の購入補助制度を導入し、生ごみの減量を推進。 ・粗大ごみから再利用できるものをピックアップし、リユースを推進。 ・資源となる鉄類等の再資源化を推進。 ・再生資源集団回収報償金制度の見直し。 ・公共施設に給水スポットを設置し、自宅から飲料を持参するところからさらに1歩進んだ行動変容を引き起こす。	・フードドライブの実施 ・家庭用生ごみ処理機制度設計・実施 ・リユース事業実証実験 ・ごみの再資源化 ・再生資源集団回収報償金普及・啓発、提出様式の見直し ・WEB申請の検討	循環型社会推進課、穂谷川資源循環センター
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・循環型社会を構築するために、市民・事業者の4R（リデュース、リフューズ、リユース、リサイクル）の意識を醸成する必要がある。 ・引き続き、ごみのリデュースを最優先に、4Rの取り組みを推進する。	・事業者と連携してフードドライブを実施した。 ・家庭用電動生ごみ処理補助制度を実施した。 ・事業者と連携してリユース事業の実証実験を実施した。 ・分別収集や選別処理により、排出されたごみから資源物を回収し、リサイクルを実施した。 ・再生資源集団回収報償金制度の普及・啓発を実施するとともに、登録内容の変更等の手続きにWEB申請を導入した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
4 Rの推進	生ごみの減量・減容に取り組む市民の数（延べ人数）	44	人	循環型社会推進課	2. 4 R活動の推進
各年度の実績		126	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、生ごみ堆肥講習会や家庭用電気式生ごみ処理機購入補助事業等により、4 Rの推進に取り組んでいく。					
家庭部門における温室効果ガス排出量（t-CO2）の削減量	家庭部門における温室効果ガス排出量（t-CO2）の削減量	—	t-CO2	循環型社会推進課	2. 4 R活動の推進
各年度の実績		—	t-CO2	備考	
【施策指標の分析 R6】 公共施設に給水機を設置することで、プラスチックごみの削減を図り、家庭部門における温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいく。					

3. 効率的なごみ収集処理の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
平成31年1月に策定した「ごみ収集業務体制見直し実施計画」に基づき、令和6年度を最終年度とし、段階的に一般ごみ収集業務の委託化を進め、2人乗務体制に変更。	直営車両5台を委託化し、2人乗務に変更 ※ 委託率80%	環境事業課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
人件費等、物価高騰に伴う委託料の増加 一般ごみ収集業務委託の継続	「ごみ収集業務体制見直し実施計画」に基づく一般ごみ収集業務の委託化及び2人乗務体制を完了 ※委託率80%	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化

取り組みの内容	R6年度	担当課
事業系ごみの減量指導を行うとともに、廃棄物処理法による排出事業者責任の考え方に基づき、ごみ処理原価に一致したものとなるよう事業系ごみ処理手数料の適正化を推進。	多量排出事業者への減量指導	循環型社会推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・事業者が食品ロスの削減等のさらなる4Rに取り組めるような、施策が必要である。 ・引き続き、多量排出事業者への立入指導を行うとともに、一般廃棄物収集運搬許可業者と連携した事業系ごみ減量・リサイクルの取り組みを進める。	多量排出事業者に対して一般廃棄物管理責任者の選任及び事業系一般廃棄物減量等計画書の提出を求めた。 また、一部の事業者に立入を行い、ごみの排出状況や減量やリサイクルの取り組みの状況を確認し、助言や指導を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
多量排出事業者数	事業活動に伴って月平均2.5トン以上の一般廃棄物を排出する事業者の数	80	社	循環型社会推進課	4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化
各年度の実績		80	社	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、多量排出事業者への減量指導に取り組んでいく。					

5. DX等によるごみ収集の最適化

取り組みの内容	R6年度	担当課
ごみ収集業務において効率的な収集データ等の管理を行う運行管理システムを導入。	・システムの構築	環境事業課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
R9年度の本格導入に向け様々な角度から運行管理システムの検証を行う。	・関係各課との調整済 ・システム会社との綿密な打ち合わせを行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ごみ収集管理に係る業務時間数	収集時間、走行距離、回送距離、作業時間、間違いごみ内容等の記録のデータ化、委託車両の巡視等に係る業務時間数	7,472	時間	環境事業課	5. DX等によるごみ収集の最適化
各年度の実績		7,472	時間	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・セキュリティ関連については、DX推進課指導のもと適切に対応出来た。 ・今後は運行管理システムの本格導入に向け検証を進めていく。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市民1人当たりのごみの排出量	ごみの排出量（一日あたり）／人口	784	g/人・日	循環型社会推進課	-
各年度の実績		724	g/人・日	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、4 Rの取り組みを推進し、市民一人ひとりの行動変容を促していく。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ごみの資源化率	ごみを資源化した量／ごみの排出量	19.4	%	循環型社会推進課	枚方市一般廃棄物処理基本計画
各年度の実績		17.5	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成できなかった。 ごみの排出量が減少していることから、資源物となるごみの排出も減少していることや、ペーパーレス化といった社会情勢の変化などが影響していると考えられる。					
ごみの焼却量	本市の清掃工場において焼却処理をしたごみの量	89,288	t	循環型社会推進課	枚方市一般廃棄物処理基本計画
各年度の実績		84,051	t	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、4 Rの取り組みを推進し、ごみの焼却量の削減に取り組んでいく。					
最終処分量	焼却灰などを最終処分場で埋め立てた量	10,591	t	循環型社会推進課	枚方市一般廃棄物処理基本計画
各年度の実績		9,782	t	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、4 Rの取り組みを推進し、最終処分量の削減に取り組んでいく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

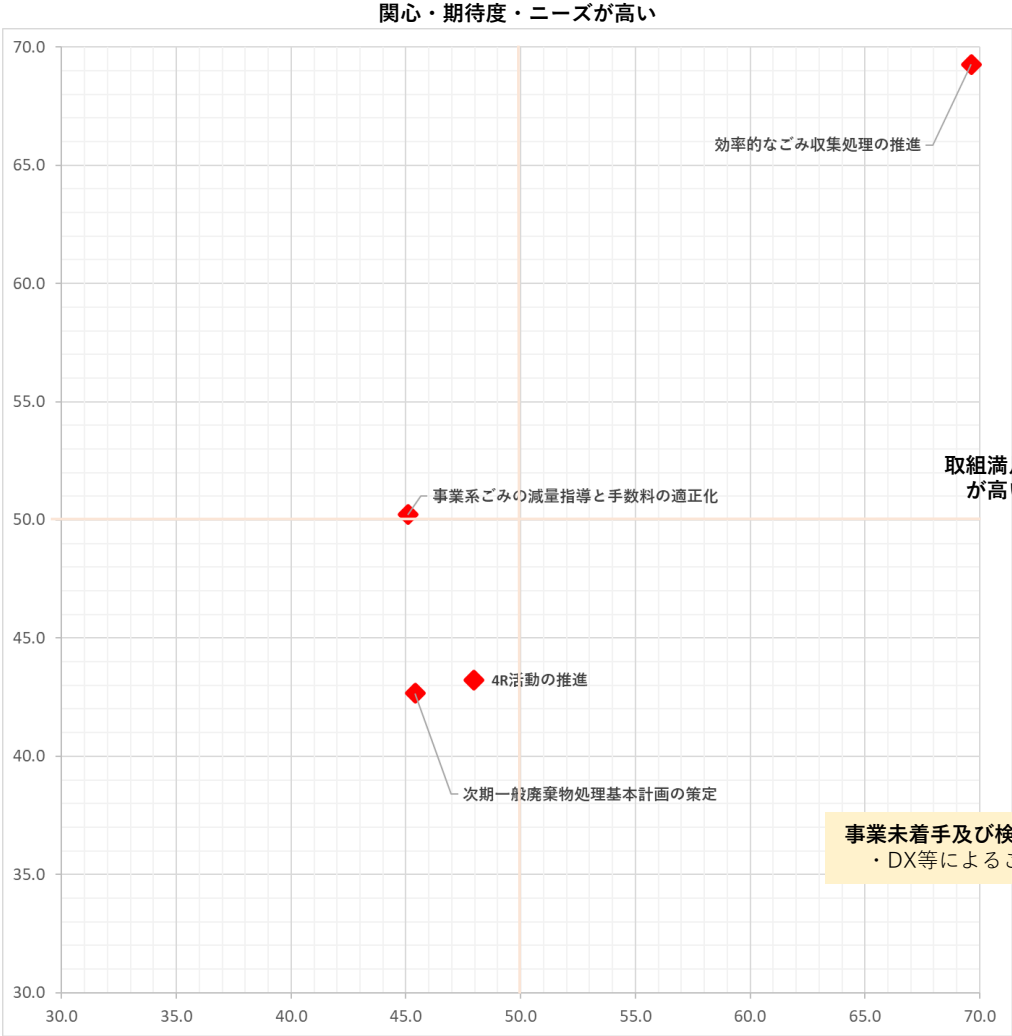
ごみ減量や資源循環が進んでいる
25_01 ごみ発生抑制を最優先にした
4 Rの推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
40.9%	16.3%	42.7%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
49.6%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『ごみ減
量や資源循環
が進んでい
る』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『25_01 ご
み発生抑制を
最優先にした
4 Rの推進』
に紐づく取り
組み⇒赤ダイ
ヤ◆

事業未着手及び検討段階の取り組み
・DX等によるごみ収集の最適化

施策の分析

- ・「3. 効率的なごみ収集処理の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定」、「2. 4 R 活動の推進」、「4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化」の関心・期待度・ニ
ーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性としては、引き続きごみ発生を抑制するため、4 Rの推進を行っていくとともに、循環型社会の形成に向け、事業者と市民へごみの発生抑制への意識醸成を積極的に行っていく。施策の目的達成に向けて、関心・期待度・ニーズと取組満足度とともに高い「3. 効率的なごみ収集処理の推進」について、取り組みを継続しつつ、より効率的なごみ収集を行う。

1. 施策の概要

施策シート[26_01]

環境部

施策名称		大気・土壌汚染等の公害の未然防止				
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち				
めざす姿（主観的満足度）		安全で良好な生活環境が確保されている				
概要		大気・土壌汚染等の郊外の未然防止を図り、良好な生活環境を確保する。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		
	R9年度		R10年度		R11年度	
	R12年度		R13年度		R14年度	
	R15年度		R16年度		R17年度	
	R18年度		R19年度		R20年度	

1. 公害の未然防止

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度47.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.1%である。最も低いのは、40歳台で39.8%であった。
- ・就業状況が自営業の人の73.7%が安全で良好な生活環境に対して満足と感じている。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.0ポイント減少し、特に子育て世帯（25～44歳）で9.9ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策としては、「1. 公害の未然防止」は取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「環境基準（大気・水質・騒音）の達成状況」は未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 公害の未然防止

取り組みの内容	R6年度	担当課
市内の大気質の測定及び河川等における水質の測定並びに市内における環境騒音の測定。	・大気汚染測定局（一般局・自排局）での大気汚染物質に係る大気質の測定 ・市内河川等における水質の測定 ・道路沿道及び一般地域における環境騒音の測定	環境指導課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き、市内の大気質、河川等における水質、環境騒音の測定を行っていく。	・大気汚染測定局で大気汚染物質に係る大気質の測定を行った。 ・市内河川等において水質の測定を行った。 ・道路沿道及び一般地域において環境騒音の測定を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
環境基準（大気・水質・騒音）の達成状況	環境監視による大気・水質・騒音の環境基準達成度	100	%	環境指導課	1. 公害の未然防止
各年度の実績		95.2	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成する見込みである。 引き続き、大気・水質・騒音の環境監視に取り組んでいく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

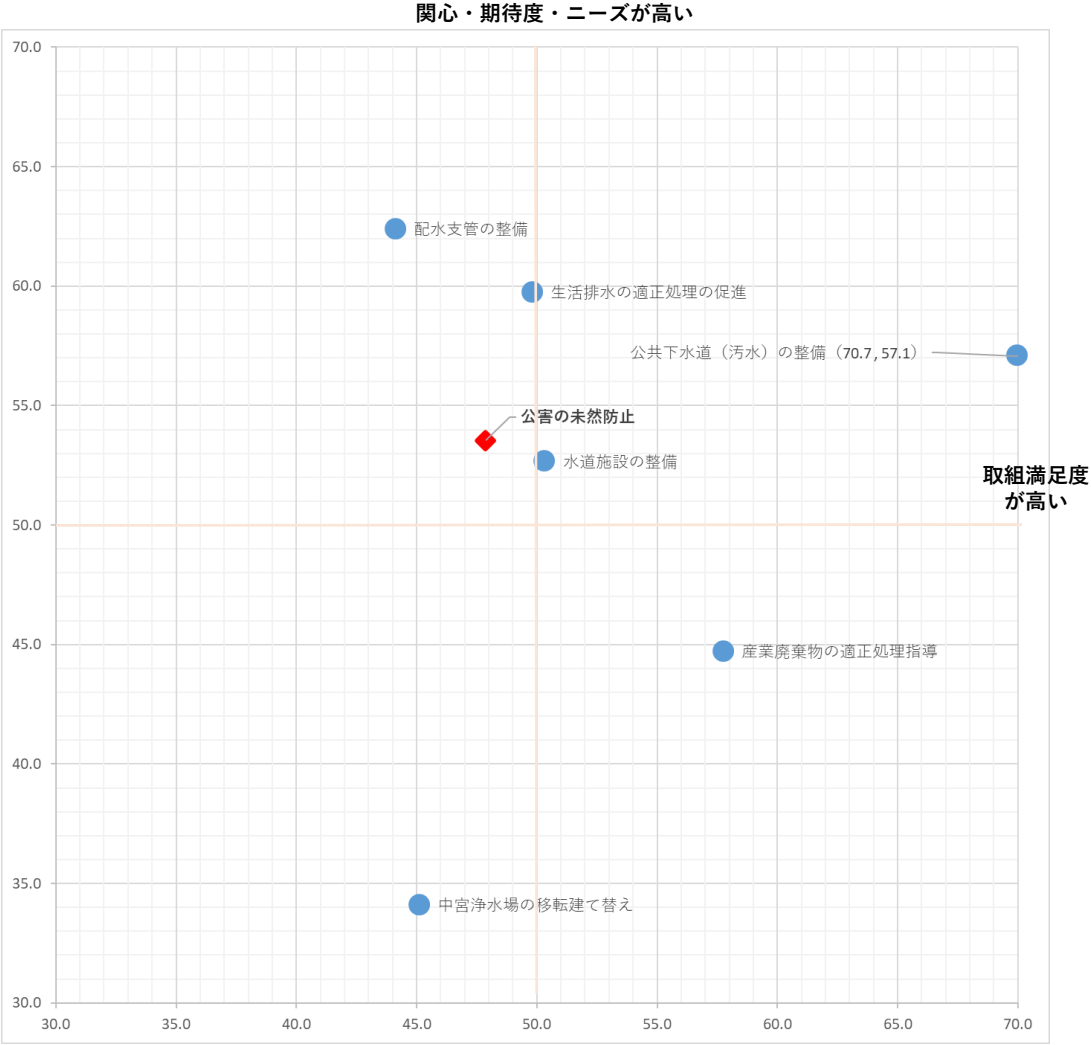
安全で良好な生活環境
26_01 大気・土壌汚染等の公害の未然防止

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
47.2%	9.5%	43.3%
「決め手となった取り組みはない」と回答した人		
47.5%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『安全で良好な生活環境』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『26_01 大気・土壌汚染等の公害の未然防止』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- 「1. 公害の未然防止」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは高い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

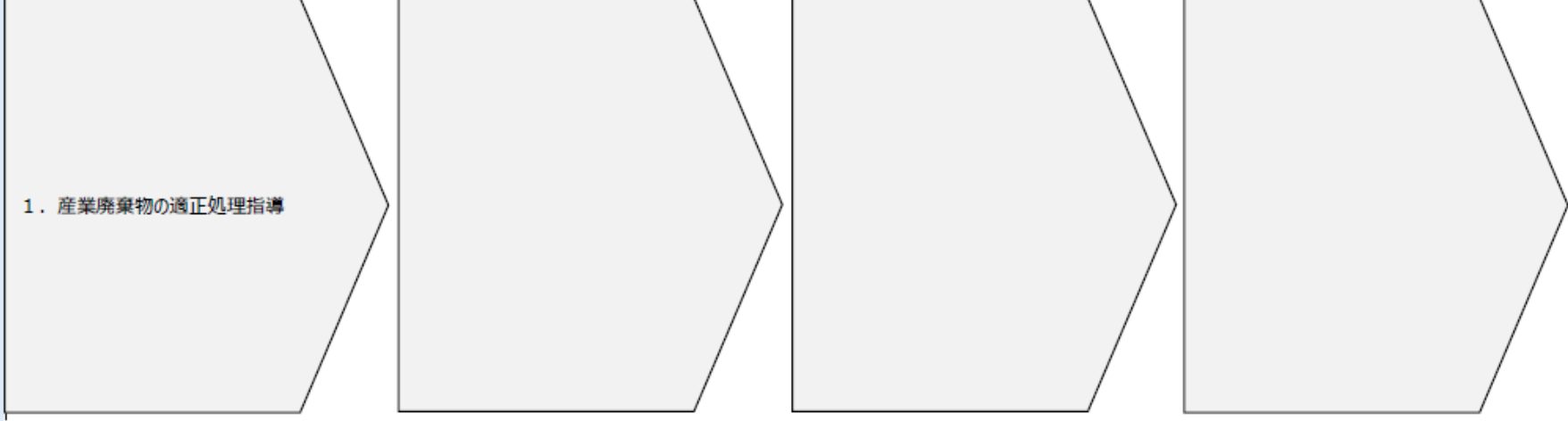
今後の方向性

- ・施策の方向性としては、良好な生活環境を確保するため、市内の大気質、河川等における水質、環境騒音の測定を行い、大気・土壌汚染等の公害の未然防止を図っていく。

1. 施策の概要

施策シート[26_02]

環境部

施策名称	産業廃棄物などの発生抑制や適性処理の推進			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち		
めざす姿（主観的満足度）		安全で良好な生活環境が確保されている		
概要		産業廃棄物などの発生抑制や適性処理を推進し、良好な生活環境を確保する。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度47.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.1%である。最も低いのは、40歳台で39.8%であった。
- ・就業状況が自営業の人の73.7%が安全で良好な生活環境に対して満足と感じている。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.0ポイント減少し、特に子育て世帯（25～44歳）で9.9ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、「1. 産業廃棄物の適正処理指導」は計画通りに進めることができおり、目標達成に向け推進している。

【施策指標】

- ・指標については、測定が可能な指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 産業廃棄物の適正処理指導

取り組みの内容	R6年度	担当課
産業廃棄物を処理する事業者に対し、法令に従った適正処理の指導を実施。	- 産業廃棄物処理業者に対し立入検査を行って適正処理に係る指導 - 排出事業者及びPCB廃棄物保管事業者に対し産業廃棄物の適正処理について指導 - 当該事業を遂行できる人材育成を行う	環境指導課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き産業廃棄物の適正処理が図られるためには継続した指導が必要である。	全ての産業廃棄物処理業者、PCB廃棄物新規保管事業者に対して立入検査等を行うことで適正処理指導を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
産業廃棄物処理業者に対する優良認定の啓発率	産業廃棄物処理業者の全業者に対する優良認定の取得促進のために啓発した割合 (算出式：啓発した許可業者数／全許可業者数)	100	%	環境指導課	1. 産業廃棄物の適正処理指導
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 全ての産業廃棄物処理業者（19社）に対して立入検査を行い、優良認定の啓発を実施したため、目標を達成することができた。					
全産業廃棄物処理業者に対する立入検査率	産業廃棄物処理の全業者に対する立入検査の割合（算出式：立入検査を行った業者数／全産業廃棄物処理業者）	100	%	環境指導課	1. 産業廃棄物の適正処理指導
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 全ての産業廃棄物処理業者（19社）に対して立入検査を行ったため、目標を達成することができた。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

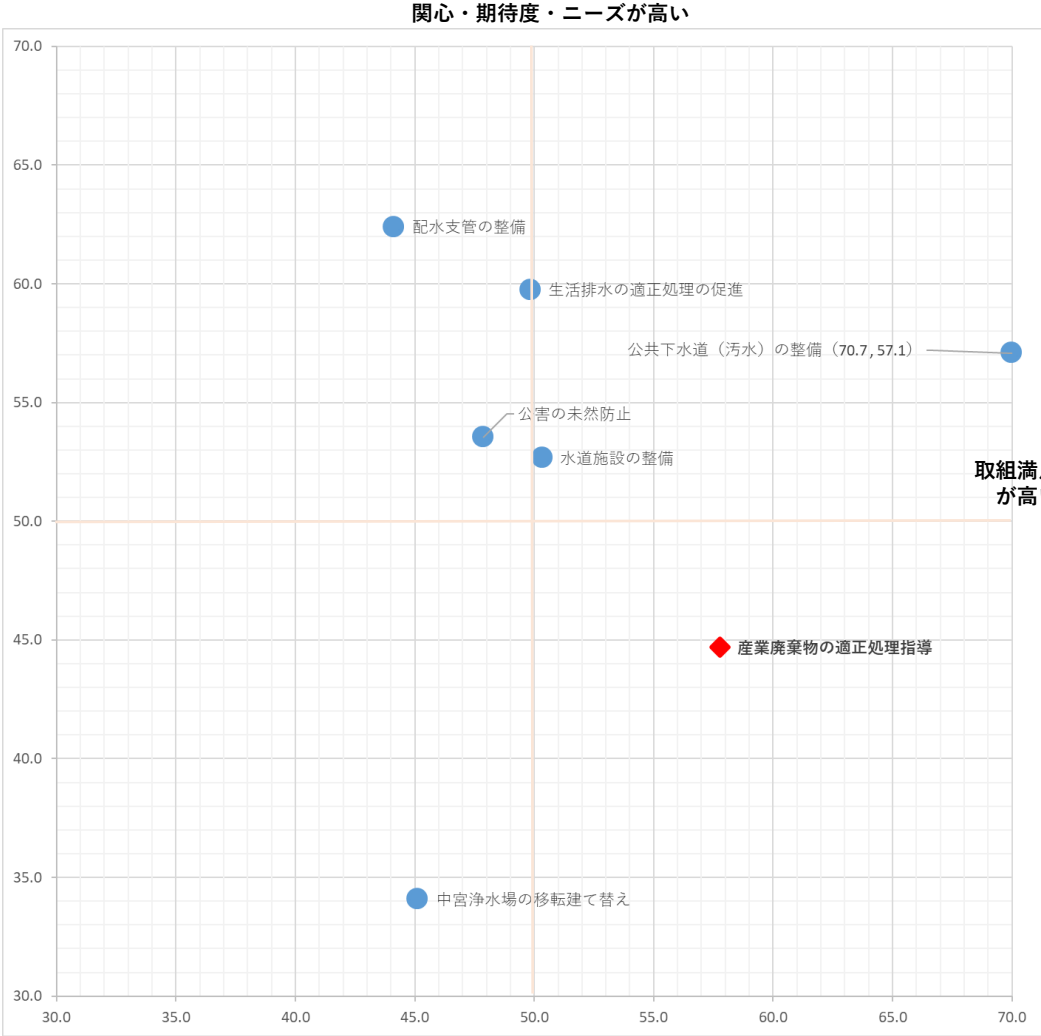
安全で良好な生活環境
26_02 産業廃棄物などの発生抑制
や適性処理の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
47.2%	9.5%	43.3%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
47.5%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『安全で
良好な生活環境』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート
『26_02 産業廃棄物などの発生抑制や
適性処理の推進』に紐づく
取り組み⇒赤
ダイヤ◆

施策の分析

・「1. 産業廃棄物の適正処理指導」の関心・期待度・ニーズは低いものの、取組満足度は高い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策の方向性としては、産業廃棄物の適正処理が図られるためには継続した指導を行う。良好な生活環境を確保するため、引き続き、産業廃棄物などの発生抑制や適性処理を推進していく。

1. 施策の概要

施策シート[26_03]

上下水道部

施策名称	安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給				
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち			
めざす姿（主観的満足度）	安全で良好な生活環境が確保されている				
概要	市民の生活や産業活動を支えるため、安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給する。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度		
	1. 中宮浄水場の移転建て替え 2. 配水支管の整備 3. 水道施設の整備	4. 人工衛星とAI解析を活用した 水道管路の漏水検知等業務			
			R9年度		
			1. 中宮浄水場の移転建て替え ○通水開始予定		

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度47.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.1%である。最も低いのは、40歳台で39.8%であった。
- ・就業状況が自営業の人の73.7%が安全で良好な生活環境に対して満足と感じている。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.0ポイント減少し、特に子育て世帯（25～44歳）で9.9ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては概ね計画通りに進めることができている。「4. 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知等の推進」は令和7年度から実施する取り組みである。

【施策指標】

- ・「水道施設（送配水管を除く）の更新等実施件数」については、入札不調により未達成だが、目標には近づいている。それ以外の指標については、指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 中宮浄水場の移転建て替え

取り組みの内容	R6年度	担当課
老朽化が進み耐震性が不足する中宮浄水場の移転建て替えに取り組む。	膜ろ過棟・前処理施設築造	浄水課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き、老朽化が進み耐震性が不足する中宮浄水場の移転建て替えに取り組む。	膜ろ過棟・前処理施設の築造に取り組んだ。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
耐震性能を有する浄水施設の割合	耐震対策の施された浄水施設能力／全浄水施設能力	0	%	浄水課	1. 中宮浄水場の移転建て替え
各年度の実績		0	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和9年度の工事完成をめざし、膜ろ過棟・前処理施設の築造に取り組んでいるため、令和6年度末の浄水施設の耐震化率は0%である。					

2. 配水支管の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
老朽管路の更新・耐震化	更新による管路の耐震化を実施	上水道工務課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き「枚方市水道施設整備基本計画」に基づき、管路の更新・耐震化を行い安定した水道水の供給に取り組む。	送配水管更新耐震化工事を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
耐震性能を有する水道管路の割合	耐震性能を有する水道支管路延長距離／水道支管路延長距離	29.5	%	上水道工務課	2. 配水支管の整備
各年度の実績		29.6	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 他企業と競合する一部事業については、事業間調整により次年度繰越となったものの、指標については目標通り達成できた。					

3. 水道施設の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
送配水管を除く水道施設の更新・改良及び耐震化を実施	・磯島取水場更新基本設計 ・妙見山配水池更新基本設計 ・その他施設の更新・改良	浄水課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き、水道施設の更新・改良及び耐震化に取り組む。	磯島取水場更新基本設計委託及び妙見山配水池更新基本設計委託の契約を締結した。また、田口山配水池受変電設備更新工事を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
水道施設（送配水管を除く）の更新等実施件数	水道施設（送配水管を除く）の更新・改良及び耐震化に係る事業（設計・工事）実施件数	6	件数	浄水課	3. 水道施設の整備
各年度の実績		5	件数	備考	
【施策指標の分析 R6】 入札不調のため1件は契約に至らなかった。					

4. 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知等の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
デジタル技術の導入を進め効率的に維持管理を実施	—	上下水道政策課 上水道保全課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和7年度から衛星画像を利用し、漏水の可能性のあるエリアを選出し、漏水検知を実施する。	令和7年度衛星画像を用いた漏水検知業務実施に向けた準備	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
緊急工事回数	市民からの通報等により緊急で工事した回数	—	回	上水道保全課	4. 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知等業務
各年度の実績		—	回	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和7年度から実施					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

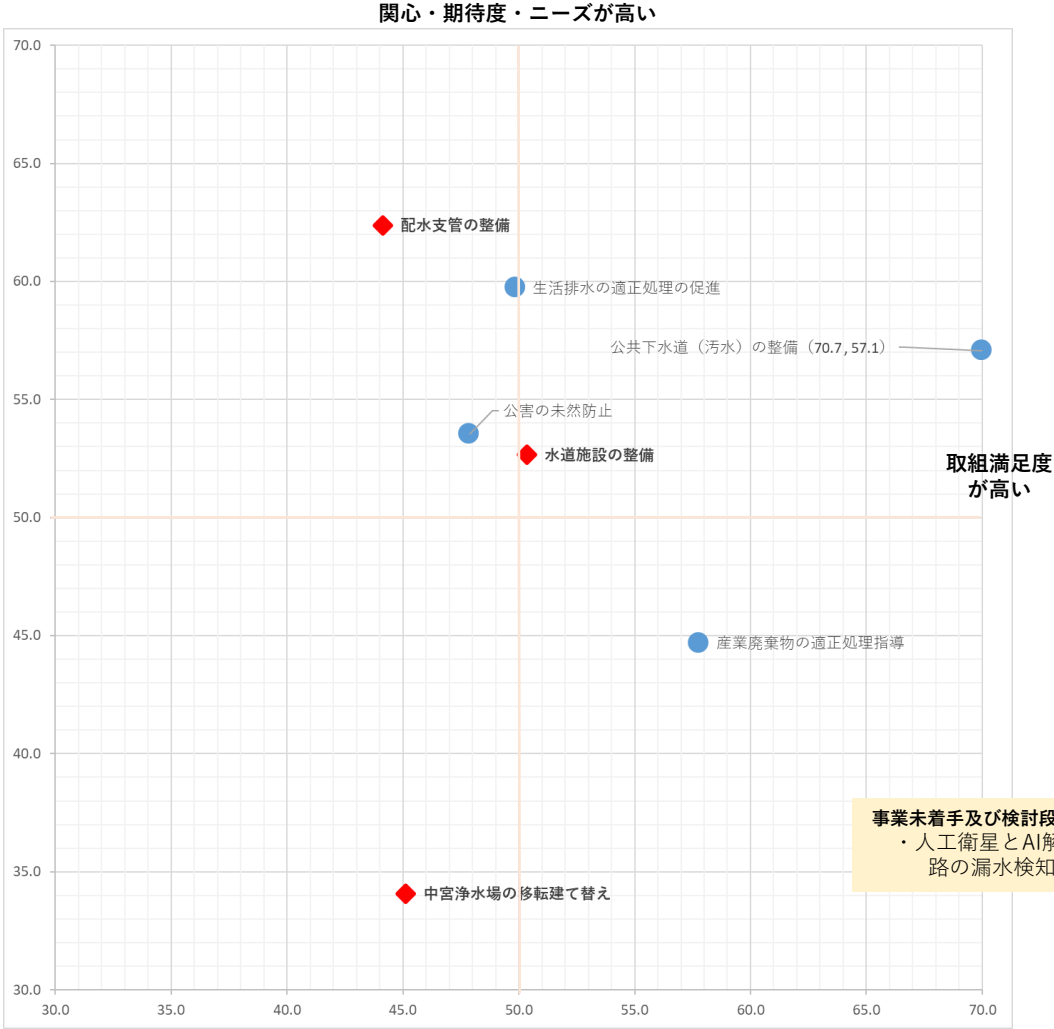
安全で良好な生活環境
26_03 安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
47.2%	9.5%	43.3%
「決め手となった取り組みはない」と回答した人		
47.5%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『安全で良好な生活環境』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『26_03 安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析	
・「2. 配水支管の整備」の関心・期待度・ニーズは高く、取組満足度は低い。	
・「1. 中宮浄水場の移転建て替え」の関心・期待度・ニーズは低く、取組満足度は平均的である。	
・「3. 水道施設の整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度は平均的である。	

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性としては、引き続きインフラの一つである水道は市民生活の基本であることから、市民の生活や産業活動を支えるため、安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給できるよう取り組んでいく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績も見られるので、当該施策を継続・発展させることで、市民への意識の広がりや満足度のさらなる向上を期待する。

・事業計画等は着実に進めていただきたい。使用料金改定なども含めて、改修に係る財源資金の調達を進めてはどうか。

・工事費の高騰対策、漏水対策の強化など、満足度を上げる前の段階で対処が必要なところも多い。水道事業それ自体の経営や維持管理業務についての説明を市民には丁寧にしていく必要がある。水道事業への理解を深め、満足度の向上にもつながる可能性がある。

・水道インフラの老朽化が社会課題として挙げられる中、予算・労力面から効率よく更新するために、D Xを推進させ、下水処理施設・配管の更新工事と併せて、不安なく市民が生活できるように引き続きご尽力いただきたい。

・市民生活を支える基盤施設であるため、引き続き取り組みを推進していただきたい。

・維持管理は必要不可欠のものであるので、市民満足度とは別に計画等に沿って進めていただきたい。

・本施策名称にもなっている「安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給」を実現することは、他の関連施策にも波及し、その積み重ねが結果、市民の住みよさにつながるように思う。

1. 施策の概要

施策シート【26_04】

保健所、環境部、上下水道部

施策名称		生活排水等の適正処理
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち
めざす姿（主観的満足度）		安全で良好な生活環境が確保されている
概要		河川や水路、池などの水質汚濁の防止を図るために、公共下水道の整備を促進するとともに生活排水等の適正処理を進める。
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	
	R7年度	
	R8年度	
	R9年度	

1. 生活排水の適正処理の促進
2. 公共下水道（污水）の整備

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度47.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.1%である。最も低いのは、40歳台で39.8%であった。
- ・就業状況が自営業の人の73.7%が安全で良好な生活環境に対して満足と感じている。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.0ポイント減少し、特に子育て世帯（25～44歳）で9.9ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては全体として、工事工程の遅れ等により一部未達成となっているものの、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、測定が可能な指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 生活排水の適正処理の促進

取り組みの内容	R6年度	担当課
公共下水道の整備を推進するとともに、公共下水道整備計画区域外においては、合併処理浄化槽による生活排水の適正処理を推進。	・公共下水道の整備及び接続の推進 ・浄化槽による適正処理の推進 ・市民に対する啓発活動	保健衛生課、希釈放流センター、環境指導課、上下水道政策課、下水道管理課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・公共下水道の整備促進を図りつつ、し尿・浄化槽汚泥等を適正に処理し、衛生的で快適な生活環境の保全に努める必要がある。 ・引き続き、一般廃棄物処理計画及び下水道事業各種計画に基づき生活排水の適正処理を推進する。	・整備により公共下水道処理区域を増加した。 ・下水道未接続家庭への下水道接続を啓発した。 ・広報ひらかたを活用して、下水道接続や合併浄化槽設置等の生活排水適正処理に関する啓発を実施した。 ・水環境学習会や生活排水の適正処理に関するパネル展示を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
生活排水の適正処理率	生活排水の処理人口（公共下水道接続人口＋合併処理浄化槽処理人口等）／行政人口	98.5	%	循環型社会推進課	1. 生活排水の適正処理の促進
各年度の実績		99.2	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、生活排水の適正処理を推進に取り組んでいく。					

2. 公共下水道（污水）の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
整備済み区域内に点在する未承諾地区や整備困難地区の解消に取り組みます。	公共下水道（污水）の整備	上下水道政策課、下水道整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
杉責谷1丁目他4地区において、公共下水道工事を行い、内1地区において工程に遅れが生じ、繰越となった。今後は、早期完成に向け取り組みます。	・杉責谷1丁目他3地区において公共下水道への接続が可能となった。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
公共下水道（污水）の人口普及率	公共下水道整備人口／行政人口	97.6	%	上下水道政策課、下水道整備課	2. 公共下水道（污水）の整備
各年度の実績		97.9	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 概ね順調に取り組みを進めることができた。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

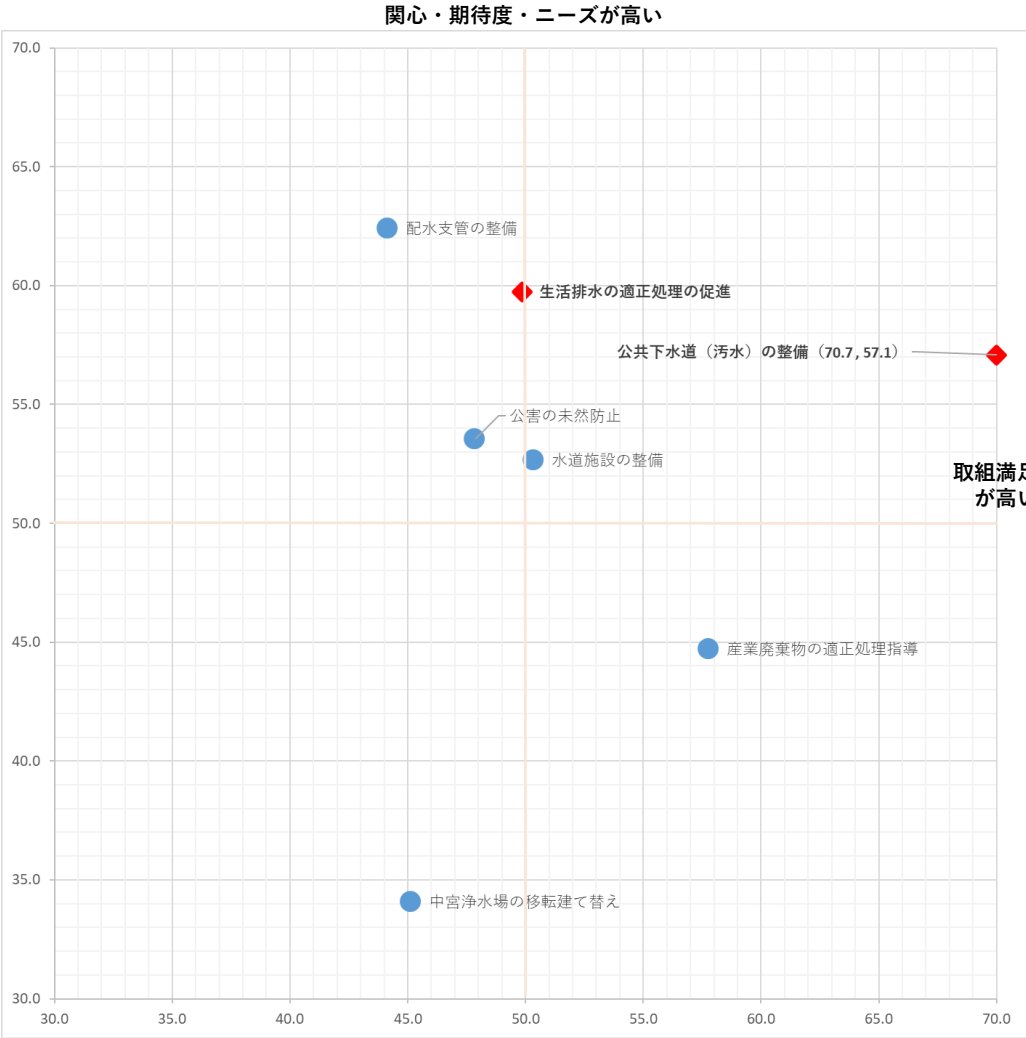
安全で良好な生活環境
26_04 生活排水等の適正処理

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
47.2%	9.5%	43.3%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
47.5%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足
度）『安全で
良好な生活環
境』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『26_04 生
活排水等の適
正処理』に紐
づく取り組み
⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 生活排水の適正処理の促進」の関心・期待度・ニーズは高く、取組満足度は平均的である。
- ・「2. 公共下水道（污水）の整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性としては、引き続き、公共下水道の整備促進を図りつつ、し尿・浄化槽汚泥等を適正に処理し、衛生的で快適な生活環境の保全に努める。施策の目的達成に向けて、関心・期待度・ニーズと取組満足度がともに高い「2. 公共下水道（汚水）の整備」について、取り組みを継続しつつ、工期が遅れている工事についても早期完成を目指す。

1. 施策の概要

施策シート【27_01】

環境部

施策名称		ゼロカーボンシティの推進		
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等	27.地球温暖化対策に取り組むまち		
めざす姿（主観的満足度）		地球温暖化の取り組みが進んでいる		
概要		再生可能エネルギーの利用拡大、環境教育・学習の推進、省エネルギーの推進を図る。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度18.4%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、34.1%である。最も低いのは、80歳以上で11.8%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にある。
- ・昨年度と比較すると全体では、2.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・電気のエネルギー消費量の増加などにより、温室効果ガス排出量削減に関連する指標は目標値を下回っている。「市有建築物等における太陽光発電容量」や「枚方市地球温暖化対策実行計画」の指標についても目標値を下回っている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進

取り組みの内容	R6年度	担当課
ため池等を活用した再エネ導入のモデルを示すとともに、二酸化炭素排出量の削減に繋がる再エネ・省エネ・EV等の取り組みに対して補助金を交付。	・太陽光発電設置工事を実施し、地産地消の再エネ供給開始（モデル事業） ・再エネ・省エネ・EV等の導入支援補助の実施	環境政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・ため池等を活用した再エネ導入をモデルに、再エネの地産地消が拡大するよう取り組みを推進する。 ・重点対策加速化事業の計画期間である令和10年度まで継続して補助を実施し、補助事業終了後も地域脱炭素の取り組みが広がるよう意識醸成を図る。	・招提新大池・今池にフ ロート型大型太陽光発電設備を設置し発電した電気をひらかたパークとくずはモールに供給開始 ・重点対策加速化事業を活用したひらかたゼロカーボン推進補助金事業を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	平成25（2013）年度比の市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率	25.4 [R4年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		22.5	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。					
市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率（2020年度比）	令和2（2020）年度比の市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率	6.8 [R4年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		3.1	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。					
家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	基準年度（平成25(2013)年度）比の家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率	35.5 [R4年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		27.8	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したこと、及び電気のエネルギー消費量が増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。					
家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率（2020年度比）	令和2（2020）年度比の家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率	10.7 [R4年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		0.0	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したこと、及び電気のエネルギー消費量が増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。					

2. 電気の一括購入と再エネ導入

取り組みの内容	R6年度	担当課
各施設の電気購入契約期間を統一化するとともに、契約を一本化。令和5年度に実施した「公共施設への再エネ設備導入可能性調査」の結果などをもち、様々な再エネ導入手法や省エネ化の検討を行い、スケールメリットを活かした電気の一括購入と再生可能エネルギー・省エネ設備の導入などを一体的に実施。	・再生可能エネルギー導入 ・エネルギーマネジメント ・省エネ改修と電気の一括購入に向けた検討と事業者の選定	環境政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・省エネ設備の導入としてLED改修を各対象施設所管課と調整の上、順次実施していく。 ・令和9年度のPPAによる太陽光発電導入に向けて検討等を進める。	事業実施に向けたサウンディング調査を実施(7事業者参加)。太陽光発電設備の可能性調査等を踏まえ、「電気の一括購入」「太陽光設置(PPA)」「LED改修」を一体のものとしてプロポーザル方式による公募を行い、附属機関の審査を経て事業者を選定した。	
年度ごとの達成状況	◎	

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市有建築物等における太陽光発電容量	市有建築物等における太陽光発電の総出力	1,421	kW	環境政策課	2. 電気の一括購入と既存施設への再エネ導入
各年度の実績		1,171	kW	備考	
【施策指標の分析 R6】 市有建築物への太陽光発電設備の導入に向けて、附属機関の審査を経て、事業者を選定した。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
令和12(2030)年度までに温室効果ガス総排出量を平成25(2013)年度比で51%以上削減	平成25(2013)年度比の市の事務事業から排出される温室効果ガス排出量の削減率 【削減量(※市の事務事業)/基準年度における市の事務事業に係る温室効果ガス排出量】	39.7	%	環境政策課	枚方市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)
各年度の実績		17.2	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 温室効果ガス排出量の約8割を占める電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したこと、市内の全小中学校の体育館に空調施設が整備されたことにより、都市ガスの使用量が増加したことが目標未達成の主な要因です。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

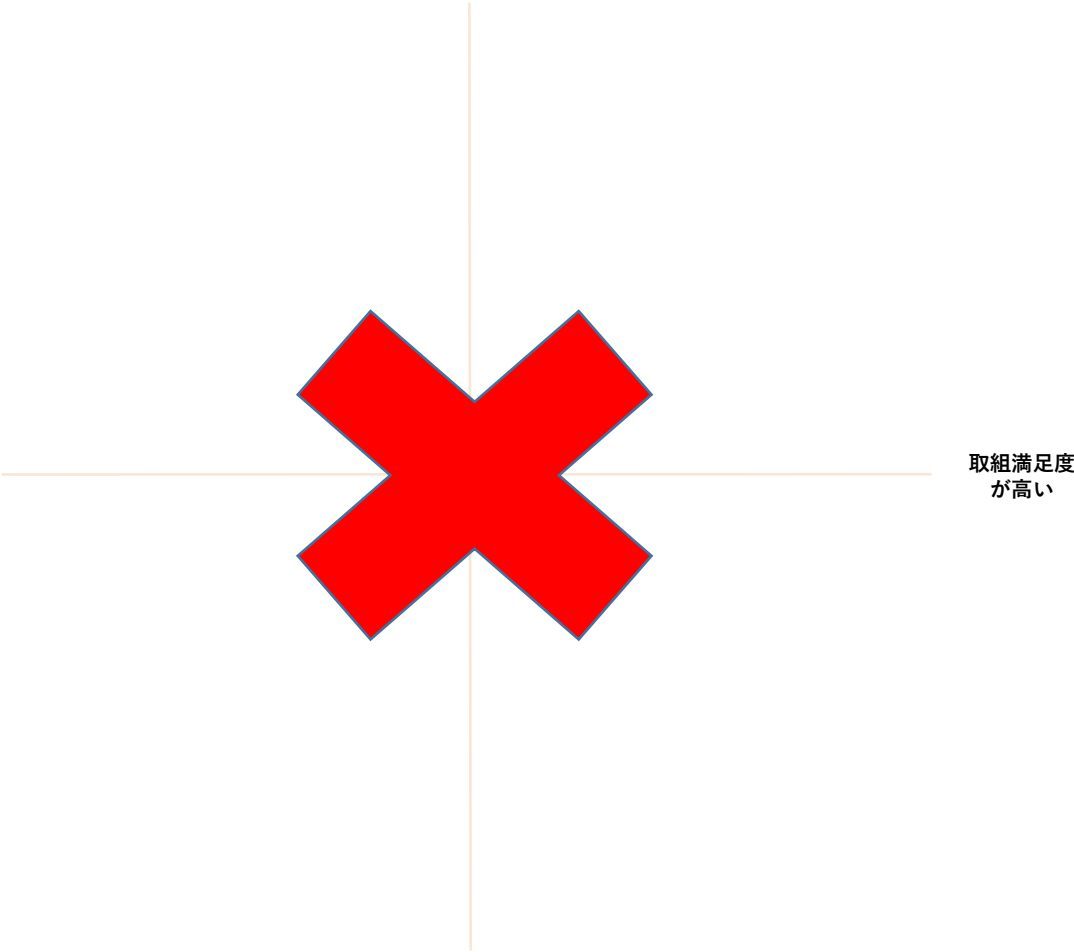
地球温暖化対策
27_01 ゼロカーボンシティの推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
18.4%	23.5%	58.1%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
69.3%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが2つのためマトリクス分析不可
・再エネ・省エネ・EV等の普及促進
・電気の一括購入と既存施設への再エネ導入

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策の方向性としては、市民の地球温暖化対策への意識の醸成を目指し、取り組み内容のPRを積極的に行っていく。
- ・「2. 電気の一括購入と再エネ導入」については令和7年度から段階的に実施していく中で、効果を注視していく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

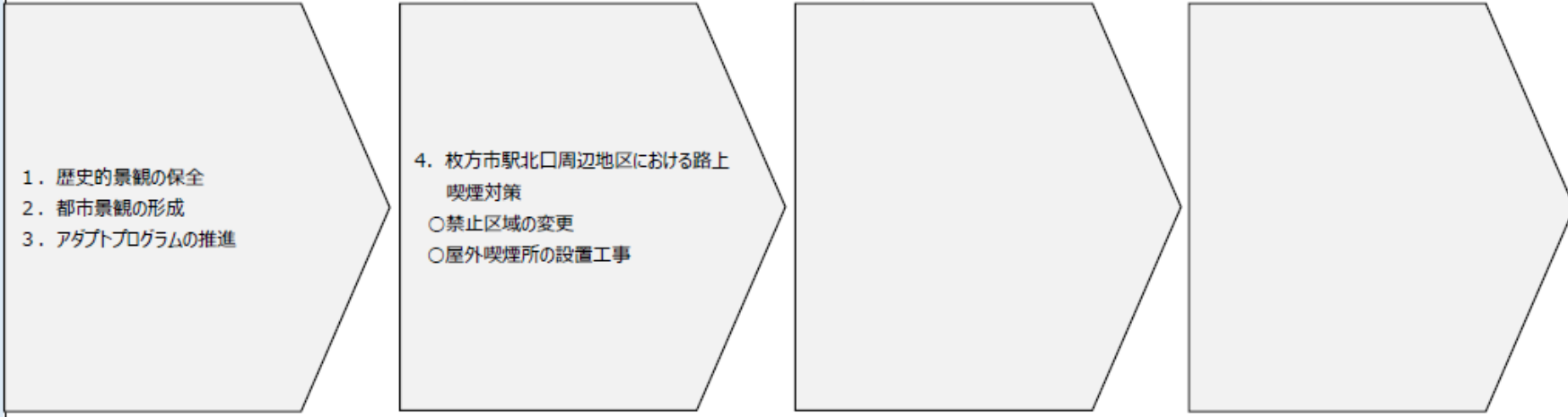
施策評価員による評価

- ・設備投資額とその効果を検証しながら、環境負荷軽減への取り組みを推し進めていただきたい。
- ・近年の異常な暑さもあり、各家庭でもエアコン使用が奨励されている中、2013年度や2020年度の実績と比較しても目標値を達成することが難しい。そのため例えば、省エネ家電買い換え時の補助金や申請件数などを施策指標にしてもよいのではないか。
- ・市の地域脱炭素移行・再エネ推進事業計画では、色々な方向性が記されているが、現状の評価指標では太陽光発電・省エネと電力にばかりが視点が行っているように見受けられる。屋上緑化や壁面緑化・並木、里山保全など、緑化による削減の指標化も検討が必要ではないか。
- ・環境問題については、国や諸外国を含めて進めていく必要がある大きなテーマではあるが、市民に向けた環境教育や啓発活動は市の単位でも取り組めることである。市民の声も取り入れながら、環境を守る重要性を市民と共有できる取り組みへのさらなる実現に期待する。
- ・全庁的に再エネ、省エネが進んでおらず、庁舎建て替え問題もあるが、再エネ導入が遅れていること、省エネ努力が弱いことなど、問題が多いように思える。今後は、省エネ再エネ設備、エネルギーマネジメントシステム導入等と電力一括購入を進めているのでその効果を7年度以降期待する。効果を毎年測定して、次の活動につなげるようにすることが重要である。また、温暖化対策実行計画の見直しも必要かもしれない。

1. 施策の概要

施策シート【28_01】

環境部、都市整備部、土木部

施策名称		景観に配慮した美しいまち並みの形成			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	28.美しく魅力あるまち並みが育まれるまち			
めざす姿（主観的満足度）		まちの美化が進んでいる			
概要		道路・公園等の美化活動の促進、歴史的景観の保全、地域特性に応じた魅力あふれる景観づくりを図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
					
	1. 歴史的景観の保全				
	2. 都市景観の形成				
	3. アダプトプログラムの推進				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度40.5%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、51.2%である。最も低いのは、40歳台で33.1%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じる、枚方をオススメしたい市民ほど満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.6ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「修景補助を受けた建物の件数（累計）」については未達成だが、目標には近づいている。一方で「継続して環境美化活動を行う市民団体数」については、未達成である。それ以外の指標については、指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 歴史的景観の保全

取り組みの内容	R6年度	担当課
歴史的な街並み景観の保全のため街道沿いに残された貴重な町家の保全や、一般の建物の歴史的な修景について建物所有者等と調整を行い、建造物等の外観等の修復、復元等に要する経費の一部を助成。	修景補助金を交付	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
修景補助に関する周知が十分ではないため、改訂した修景ガイドライン等を活用した修景補助の更なる周知を行う必要がある。	・修景助成の周知に活用するため、修景ガイドラインの改訂やリーフレットの作成を行った。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
修景補助を受けた建物の件数（累計）	歴史的景観保全地区において市からの修景補助を受けた建物修景件数（累計）	58	件	住宅まちづくり課	1. 歴史的景観の保全
各年度の実績		55	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 修景補助に関する相談が限定的であったため目標値を達成しなかった。今後、目標達成に向けて改訂した修景ガイドライン等を活用した修景補助の周知に取り組んでいく。					

2. 都市景観の形成

取り組みの内容	R6年度	担当課
景観法、屋外広告物法を活用し、市民や事業者とともに地域の特性を生かした良好なまち並み形成を図るため、一定規模以上の建築物等や歴史的な街並み等の景観誘導を実施。	・一定規模以上の建築物等の景観誘導 ・景観アドバイザー制度の活用を促し、良好な景観形成のための助言を行う	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
できるだけ早い設計段階で景観アドバイザー制度の活用ができるよう、本制度の更なる周知を行う必要がある。	・開発事業等に伴う事前協議などに合わせて、景観アドバイザー制度の活用を案内した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
景観アドバイザーより助言を受けた件数（累計）	建築等に関する計画を進める際に、景観アドバイザーより助言を受けた件数（累計）	38	件	住宅まちづくり課	2. 都市景観の形成
各年度の実績		38	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 今後も景観アドバイザー制度の更なる周知に取り組んでいく。					

3. アダプトプログラムの推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
まちの環境美化を進めるため、市が管理する道路や公園・緑地等の公共場所において、美化活動に取り組む市民団体や企業に対して協定に基づく支援を実施。	地域清掃（美化）活動に対し、ごみ袋の配布やごみの収集の支援を実施	環境事業課、公園みどり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・引き続きアダプト団体へ支援を行う。 ・各団体の高齢化が進み人員も減少している現状において、引き続き、花苗配布等の更なる活動支援に取り組む。	・アダプト団体への清掃用具の提供及び排出されたごみの収集・処分等を実施した。 【環境事業課分】 ごみ袋の配布2170枚、清掃用具等の提供433個、ごみ回収581件（2590袋） ・ごみ袋の配布やごみの収集の支援を実施した。 清掃用具やごみ袋の配布145件、ごみ回収524件。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
継続して環境美化活動を行う市民団体数	公共場所（駅前・道路・公園等）の美化活動を行う市民活動団体（アダプトプログラム登録団体）数	242 285 (公園アダプト団体数)	活動団体数	環境事業課、公園みどり課	3. アダプトプログラムの推進
各年度の実績		(環境)62 (土木)175	活動団体数	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・（環境）企業撤退及び高齢化により、登録団体は減少傾向にある。 ・（土木）登録団体数が前年度171団体から令和6年度は175団体に増加した。 団体活動の機運醸成を図るべく、緑化講習会への参加を促す。					

4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策

取り組みの内容	R6年度	担当課
市街地再開発事業の完成に併せて、路上喫煙禁止区域の追加・拡大の検討。 ・枚方市駅北口周辺エリアに屋外喫煙所を設置	—	環境政策課 市駅周辺まち活性化部 保健医療課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
枚方市駅北口についてたばこのポイ捨てを抑制するため、屋外喫煙所を設置するとともに、路上喫煙禁止区域の再検討を行う。	屋外喫煙所設置候補地の土地所有者及びたばこ事業者との協議を行った。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
禁止区域内にポイ捨てされたたばこの本数 (拡大エリアを含む)	禁止区域内にポイ捨てされたたばこの本数	—	本	環境政策課	4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策
各年度の実績		—	本	備考	
【施策指標の分析 R6】 —					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

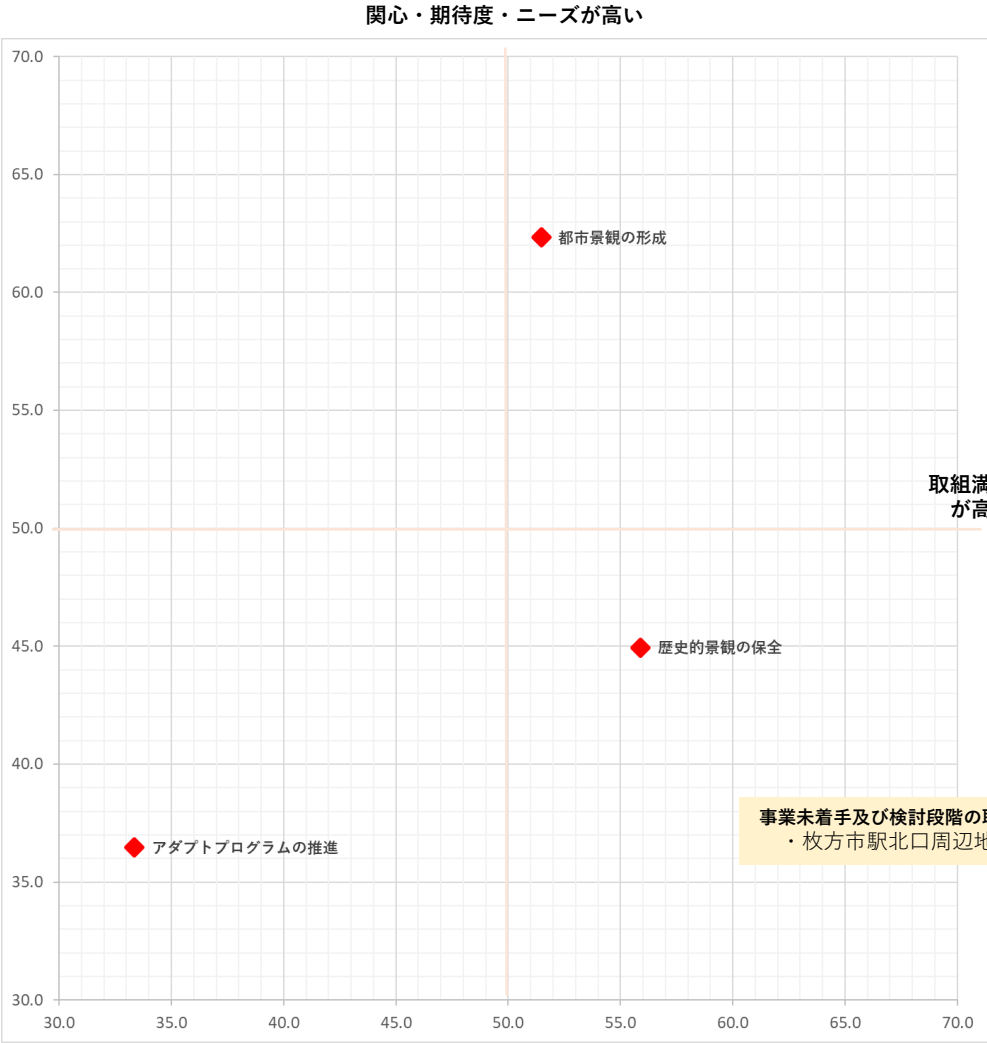
まちの美化が進んでいる
28_01 景観に配慮した美しいまち並みの形成

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
40.5%	15.4%	44.1%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
41.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『まちの美化が進んでいる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『28_01 景観に配慮した美しいまち並みの形成』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「2. 都市景観の形成」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「1. 歴史的景観の保全」の関心・期待度・ニーズは低いものの、取組満足度は高い。
- ・「3. アダプトプログラムの推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策の方向性として、「1. 歴史的景観の保全」、「2. 都市景観の形成」は取り組みの周知強化を行い、補助や制度のさらなる活用につなげる。歴史的景観の保全を推進するため、各取り組みの積極的なPRを行い、地域特性に応じた魅力あふれる景観づくりを行っていく。
- ・「3. アダプトプログラムの推進」は、道路・公園等の美化活動の促進をするため、取り組む市民団体や企業に対する支援を実施し、まちの環境美化を進める。
- ・ポイ捨てのない安全で清潔な美しいまちづくりを進めるため、枚方市駅北口の路上喫煙禁止区域の拡大とともに、屋外喫煙所の設置を検討していく。

1. 施策の概要

施策シート【29_01】

市長公室

施策名称		広報・広聴活動の充実				
総合計画体系	基本目標等	計画推進				
	施策目標等	29.市民との情報の共有化を進めます				
めざす姿（主観的満足度）		行政からの情報発信が充実している				
概要		市政や地域の情報を積極的に提供するとともに、人を呼び込むような市の魅力を市内外へ広く発信する。また、市民からの意見を広く聴取し、取り組みの成果や課題を共有することで、協働のまちづくりを進める。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度		R7年度		R8年度	R9年度
	1. PRテーマの設定 2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化 3. ハイブリッド型情報発信の推進 4. 生活相談等の充実 5. 市政モニターアンケートの実施		4. 生活相談等の充実 ○インターネット予約やオンライン相談の拡充などの相談体制の充実			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度47.4%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、53.7%である。最も低いのは、19歳以下で25.0%であった。
- ・地域活動などの社会参加や趣味・生きがいのある人ほど満足度が高い。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、2.2ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「シティプロモーションにおいて市と連携・つながりを持つ主体の数」については未達成だが、目標には近づいている。それ以外の指標については、指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. P Rテーマの設定

取り組みの内容	R6年度	担当課
市外からの枚方への関心の高まりと定住の促進、市民の街への愛着醸成につなげるため、市として強く押し出すべきPRテーマを設定し、ウェブ広告など多様な媒体を効果的に活用し展開する。	庁内連携のもと設定したPRテーマについて、市内・市外に向け多様な媒体活用によりプロモーションを展開	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
「子育てといえば枚方」というブランドイメージ構築に向けた、より戦略的な展開が課題。適切な効果指標を設定するとともに、市民や事業者も巻き込む形で各PR施策の実効性をさらに高めていきたい。	「だから、枚方」をキャッチフレーズに子育てに関する魅力・強みについて、庁内連携のもとプロモーションを展開した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
シティプロモーションサイトへのアクセス数	多様な媒体によるプロモーション・広告の流入先としてシティプロモーションサイトを設定し、当サイトにおいてより詳細な情報を届ける。	30,000	件	広報プロモーション課	1. P Rテーマの設定
各年度の実績		62,947	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 アピール企画「だから、枚方」の取り組みにおいて、インスタ広告等を積極的に展開し、広告からの遷移先としてシティプロモーションサイトを設定したことによりアクセスを大きく伸ばすことができた。					

2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化

取り組みの内容	R6年度	担当課
広がりのあるシティプロモーションとするため、枚方の魅力を発信する市PR大使や、市民などで構成するひらかたプロデューサーズなど多様な主体との連携に努めながら、枚方に関わる人を表す「枚方家族」等の新たな枠組みを再構成。	「枚方家族」などの新たな枠組み検討	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き、市内外の人と人の輪を広げ、まちへの関心と愛着を醸成するシティプロモーションを幅広く展開するとともに、取り組みを通じてつながりが生まれた人々により、自発的な情報の発信がなされるための仕組みを検討する。	庁内各部署にPR大使との積極連携を働きかける等により、広がりのあるプロモーションに取り組んだ。 「枚方家族」の枠組み再構築については、新たな連携方法などの検討を進めた。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
シティプロモーションにおいて市と連携・つながりを持つ主体の数	枚方PR大使、ひらかたプロデューサーズまたは新たに再構成する「枚方家族」などとして、市とのつながりを持ち主体的な情報発信を行っていただける人の数	250	人	広報プロモーション課	2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化
各年度の実績		249	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 「枚方家族」の枠組みについては検討しているが、現時点では当該人数を把握するまでに至っておらず、既存の枚方PR大使、ひらかたプロデューサーズについて、主体的な情報発信を実施していただいた。					

3. ハイブリッド型情報発信の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
多言語アプリ「カタログポケット」の活用など多様な人たちに適切に情報を届けるための体制確保と、新たな媒体を探り入れることなど「広報ひらかた」の電子化を促進する。	広報紙とデジタル媒体の連携（ハイブリッド型情報発信）を進め、それぞれの媒体が情報を相互に補完、拡張することでの情報発信強化	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
将来的な広報紙面のデジタル化も見据え、引き続き他市の状況等も注視しながら、紙面のあり方検討が必要	広報紙記事作成において、動画との連動など媒体ごとの長所を生かした紙面作りを実践した。	
年度ごとの達成状況	○	

4. 生活相談等の充実

取り組みの内容	R6年度	担当課
相談担当職員による生活相談業務の実施。専門相談員による専門相談（法律相談・交通事故相談等）の実施。憲法・法の日週間記念「市民講座」の開催。令和6年4月からの相続登記義務化に応じ、登記相談のインターネット予約とオンライン相談の拡充。	・大阪司法書士会と相談体制の調整を行う ・今後も市民に寄り添った相談を心がける	広聴相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
時間や場所にとらわれない相談体制の整備 誰一人取り残されないまちづくりの実現	・大阪司法書士会と連携し、オンラインによる登記相談を開始 ・相談者満足度99.2%を達成	
年度ごとの達成状況	◎	

5. 市政モニターアンケートの実施

取り組みの内容	R6年度	担当課
市政モニターの協力を得て、市政についてのアンケート調査を実施	モニター更新年にあたり、モニター数の確保と回答率の向上に取り組む	広聴相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
市内人口構成に倣うよう、若年・子育て世代のモニター登録を積極的に推進	R6年度当初での総登録モニター数は518と、十分な人数を確保できた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
「デジタル版広報ひらかた」を読んでいる人（又は配信を希望する人）の割合	アンケート調査において、「電子媒体で読んでいる（又は読むことを希望する）」と回答した件数／アンケート回答者数	21	%	広報プロモーション課	3. ハイブリッド型情報発信の推進
各年度の実績		21	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 広報紙面で毎月実施するアンケートでは21%が電子媒体での購読を希望する意向があり、引き続き各媒体の調書を生かしたハイブリッド型情報発信を行い、デジタル媒体の活用を推進していく。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
完結目標日達成率	回答全体のうち、完結目標日までに回答できた割合【算出式：完結目標日までに回答した件数／受付けた「市民の声」（供覧処理のみのもの等を除く）】	90	%	広聴相談課	4. 生活相談等の充実
各年度の実績		96.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 回答全体のうち、回答目標日を超過した回答は1件であった。目標日間際の回答が数件あり、今後も迅速な回答ができるよう、取り組みをすすめる。					
相談者満足度	枚方市品質マネジメントシステムに基づく満足度【算出式：「満足」「概ね満足」と回答した件数／アンケート回答者数】	80	%	広聴相談課	4. 生活相談等の充実
各年度の実績		99.2	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 枚方市品質マネジメントシステムでの評価項目別にみると「案内表示のわかりやすさ」にやや課題が残るが、全体の満足度は目標値を十分に満たしている。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市政モニターの年間平均回答者数	市政モニターを対象としたアンケートの年間平均回答者数	385	人	広聴相談課	5. 市政モニターアンケートの実施
各年度の実績		442	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 平均回答者数は目標の115%を達成。平均回答率は85.4%であり、信頼性の高いアンケートを実施できた。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

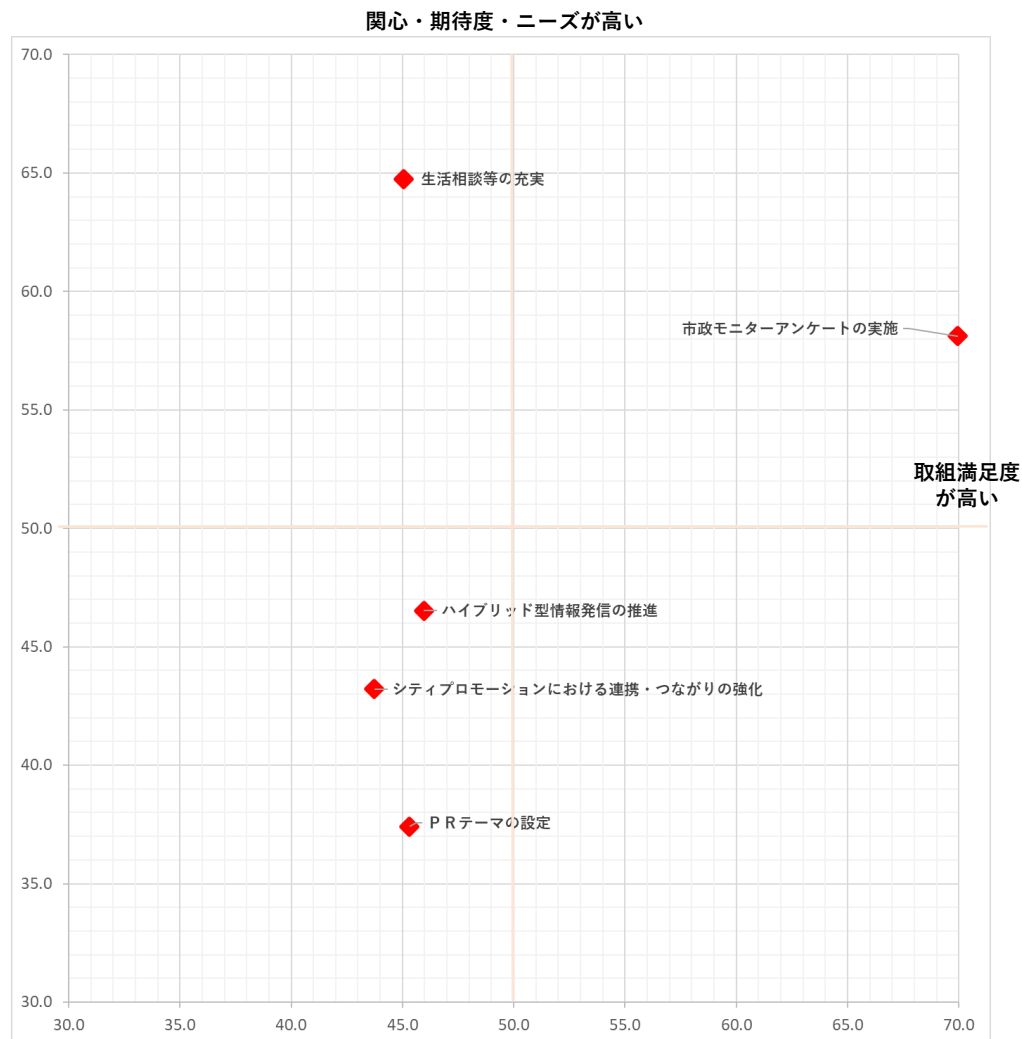
行政からの情報発信が充実している
29 01 広報・広聴活動の充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
47.4%	14.6%	38.0%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
44.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『行政からの情報発信が充実している』に紐づく全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート
『29_01 広報・広聴活動の充実』に紐づく取り組み
⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「５．市政モニターアンケートの実施」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「４．生活相談等の充実」の関心・期待度・ニーズは高く、取組満足度は低い。当事者である相談者の満足度は高いため、引き続き市民に寄り添った相談を推進していく必要がある。
- ・「１．ＰＲテーマの設定」、「２．シティプロモーションにおける連携・つながりの強化」、「３．ハイブリッド型情報発信の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

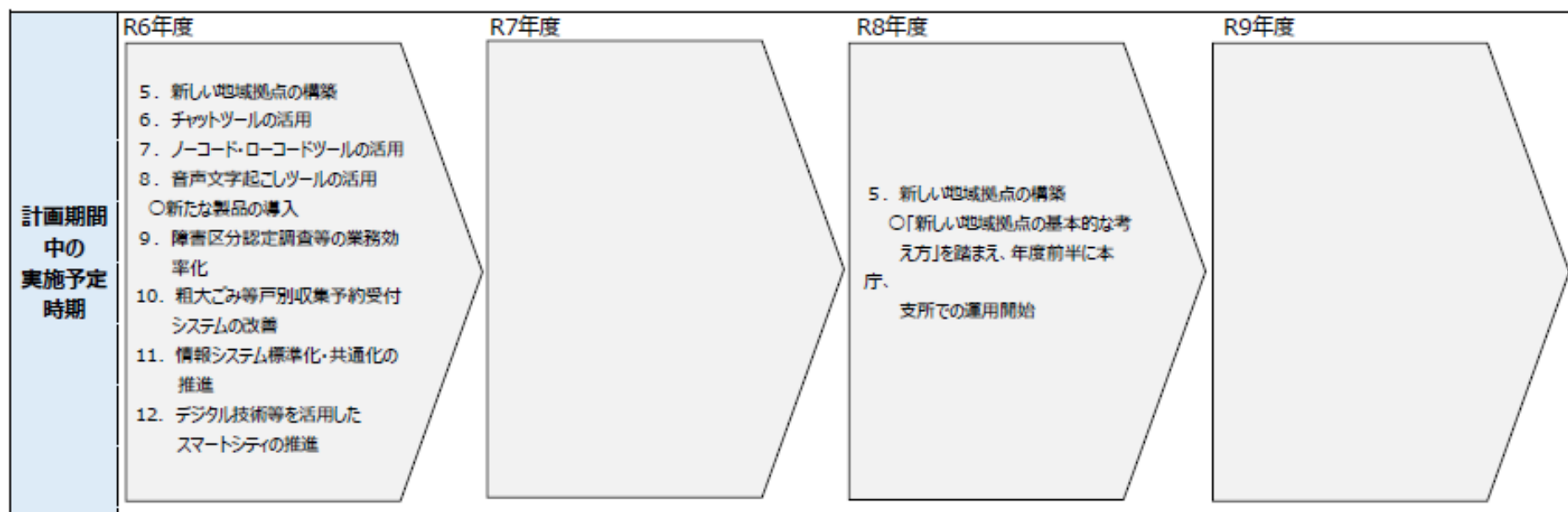
- ・施策全体の方向性としては、引き続き、**SNS**等の活用や関係機関を通じた働きかけ・イベント等でのPRなどを行うことで、市民の生活や行動に即した情報を提供し、枚方への関心の高まりと定住の促進につなげる。
- ・「1. PRテーマの設定」、「2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化」、「3. ハイブリッド型情報発信の推進」は取り組みの周知強化や取り組み内容の見直しを行っていく。

1. 施策の概要

施策シート【29_02】

総合政策部、市民生活部、健康福祉部、環境部、都市整備部

施策名称		DXの推進			
総合計画体系		基本目標等	計画推進		
		施策目標等	29.市民との情報の共有化を進めます		
めざす姿（主観的満足度）		行政に対し意見を言う場が確保されている			
概要		スマートシティを推進し、行政サービスの向上を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	R7年度				
	R8年度				
	R9年度				



2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度24.2%】

- ・年代別では、80歳以上が最も高く、32.4%である。最も低いのは、19歳以下で12.5%であった。
- ・地域活動などの社会参加や趣味・生きがいのある人ほど満足度が高い。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にある。
- ・昨年度と比較すると全体では、5.1ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

・「10. 粗大ごみ等戸別収集予約受付システムの改善」、「11. 情報システム標準化・共通化の推進」において、入札不調やシステム開発の遅れ等の影響により一部未達成となっている。それ以外の取り組みについては、概ね計画通りに進捗している。

【施策指標】

・「「書かない・待たない・回らない」窓口対応拠点」、「枚方市駅市民窓口センターにおける転入・転居（1件）に係るすべての手続きに要する時間」、「電子申請対応手続き数」、「枚方市駅市民窓口センターにおける取扱う手続き等の数」、「粗大ごみ戸別収集のインターネット予約受付率」、「スマートサービス導入の可能性検証の件数」については、目標を達成している。

「遠隔窓口システム対応手続き」、「アプリケーション数」については、目標未達成だが、目標に近づいている。

「業務負担の軽減」、「業務負担の軽減」については未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 都市づくり情報及び営繕事業のDX推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
①行政手続のオンライン化 ②遠隔臨場・BIMの導入	①段階的实施（公印・実印不要の手続） ②導入可能性の調査及び検討	都市計画課、住宅まちづくり課、開発調整課、審査指導課、施設整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
①更なる取組推進に向け処分通知の電子化や、実印を要する行政手続については先行事例等を参考しながら環境整備を行っていく。 ②通信機器等の環境整備及び遠隔臨場導入に伴う検証が必要である。	①公印・実印不要の手続（83種類）について、LoGoフォームによる運用を開始 ②都市整備部内にワーキンググループを設置し導入検討を行うとともに、庁内の建設工事等のICT化推進に関する関係部課会議において、遠隔臨場導入に向けた試行実施要領を作成した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
遠隔臨場を活用した工事件数	遠隔臨場を活用した工事件数	－	件	施設整備課	1. 都市づくり情報及び営繕事業のDX推進
各年度の実績		－	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 R7年度からの遠隔臨場実施に向け、環境整備と実施要領の作成を行った。					

2. 窓口業務オンライン化の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方市駅市民窓口センター等における実績や課題を踏まえ、デジタル技術を活用し、新庁舎窓口でのオンライン相談の活用も見据えつつ、本庁・支所での窓口業務の対応手法や取扱い業務の見直しを実施。	・枚方市駅市民窓口センターにおいてワンストップ、リモート窓口運用開始 ・遠隔窓口の運用状況を踏まえた検証	DX推進課、市民生活政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
本庁と支所の住民異動窓口システムを順次導入し、本庁でのワンストップサービスの実施手法を検討する。	・9月から施設をオープンし、窓口DXaaS、遠隔相談システム、キオスク端末などデジタル技術を活用した施設の運用を開始した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
遠隔窓口システム対応手続き	遠隔窓口システムで対応可能な相談等の手続き数	55	手続き	DX推進課 市民生活政策課	2. 窓口業務オンライン化の推進 5. 新しい地域拠点の構築 9. 障害区分認定調査等の業務効率化
各年度の実績		50	手続き	備考	
【施策指標の分析 R6】 枚方市駅市民窓口センターでの運用想定と担当課における対応可否について、改めて精査を行った結果、実際の手続き数が減少している。今後も遠隔相談窓口で対応可能な手続きの増加を目指す。					

3. 「書かない・待たない・回らない」窓口の実現

取り組みの内容	R6年度	担当課
転居等の手続きなど、複数部署を回り、申請書を何度も記入するなど、市民への負担が大きい事務について、「書かない・待たない・回らない」窓口を実現。	枚方市駅市民窓口センターにおいてワンストップ、リモート窓口運用開始	DX推進課、市民生活政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・窓口DXSaaSについては制度改正や本市での運用に合わせ、今後も継続的にシステム修正が必要。 ・窓口DXSaaSについて、本庁・支所への円滑な導入を目指す。	・窓口DXSaaSによる窓口運用を開始し、申請書の事前記入不要、ワンストップでの異動手続き等を行うことで市民負担の軽減を図ることができた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
「書かない・待たない・回らない」窓口対応拠点	窓口DXSaaSシステム（「書かない」ワンストップ窓口を実現するシステム）を導入した拠点数	1	拠点	市民生活政策課	3. 「書かない・待たない・回らない」窓口の実現
各年度の実績		1	拠点	備考	
【施策指標の分析 R6】 枚方市駅市民窓口センターにおいて、窓口DXSaaSシステムを導入し運用を開始した。次年度は市民課証明発行窓口や支所での手続きにも順次導入を進めていく予定である。					
枚方市駅市民窓口センターにおける転入・転居（1件）に係るすべての手続きに要する時間	市民が窓口DXSaaSシステム（「書かない」ワンストップ窓口を実現するシステム）を利用し、転入・転居に係るすべての手続きに要する時間	60	分	市民生活政策課	3. 「書かない・待たない・回らない」窓口の実現
各年度の実績		51	分	備考	
【施策指標の分析 R6】 直近1か月における所要時間の平均時間は51分であった。今後システム運用の修正を重ねるとともに、システム操作の熟練度の向上を図ることで時間短縮を目指す。					

4. デジタル技術を活用したスマート自治体の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
AIや電子申請等、ICTを活用した技術を積極的に活用し、市民サービスを向上。オープンデータ等、データ活用の促進を図ることにより、市民の利便性向上と官民協働によるまちづくりを推進。	・年間1,000件以上の手続きを中心に、電子申請対応手続きの拡充 ・キャッシュレス決済対応窓口の拡充	DX推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
今後の電子申請の拡充について、市民利便性の向上の他、職員業務効率化の観点も含め、効果の高い手続きを選定。	・年間1,000件以上の手続きを中心に、電子申請対応手続きの拡充した。 ・キャッシュレス決済を新たに4施設へ導入した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
電子申請対応手続き数	電子申請に対応し、市民等からオンライン申請が可能となった行政手続の種類数 ※イベント申込等の軽易な手続きを除く ※R5時点:62手続	179	手続き	DX推進課	4. デジタル技術を活用したスマート自治体推進事業
各年度の実績		191	手続き	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・年間1,000件以上の手続き及び都市整備部の所管手続きを中心にオンライン化を行った。一部原本提出や業務フローの見直しが必要な手続きについて、課題整理を行う必要があるため、オンライン化時期の見直しを行った。					

5. 新しい地域拠点の構築

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方市駅市民窓口センターでのワンストップ、リモート窓口運用の検証を踏まえ、デジタル技術を活用し、福祉関係の相談や様々な申請手続きに対応できる窓口機能を有した新しい地域拠点を構築。	「新しい地域拠点の基本的な考え方」を地域福祉計画第5期に反映	市民生活政策課、健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・遠隔相談の利用増加に向けて、手続きの周知や利用しやすい環境づくりが必要。 ・枚方市駅市民窓口センターや北部支所での実績を踏まえ、各支所への展開を検討する。 ③街区の市民窓口センターの状況や支所への展開の状況を踏まえ、地域の相談機関等の活用など、健康福祉部が想定する地域福祉の推進のための「新しい地域拠点」についてさらなる展開を検討する。	遠隔相談窓口について枚方市駅市民窓口センターでの運用を開始した。「地域福祉計画(第5期)」に健康福祉部が想定する「新しい地域拠点」の考え方を明記した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
遠隔窓口システム対応手続き	遠隔窓口システムで対応可能な相談等の手続き数	55	手続き	DX推進課 市民生活政策課	2. 窓口業務オンライン化の推進 5. 新しい地域拠点の構築
各年度の実績		50	手続き	備考	
【施策指標の分析 R6】 枚方市駅市民窓口センターでの運用想定と担当課における対応可否について、改めて精査を行った結果、実際の手続き数が減少している。今後も遠隔相談窓口で対応可能な手続きの増加を目指す。					
枚方市駅市民窓口センターにおける取扱う手続き等の数	デジタル技術を活用することにより、枚方市駅市民窓口センターで取扱う手続き等の数を増加させ、その実績を踏まえ、各支所への展開を図る。	39	件	市民生活政策課、健康福祉政策課	5. 新しい地域拠点の構築
各年度の実績		47	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 施設のオープンに合わせ、窓口DXSaaSなどを使用した取り扱い手続きについて精査を行った。センターでの手続き運用を踏まえ、市民課や各支所での円滑な展開を目指す。					

6. チャットツールの活用

取り組みの内容	R6年度	担当課
コミュニケーションの迅速化による業務削減を目標に、チャットツール（LoGoチャット）を導入。	希望部署を対象に、LoGoチャットライセンスを配布	DX推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
施策指標で分析したとおり、Logoチャット利用者に対して、業務効率化につながる利用方法を浸透させていく。	部長級以上の職員並びに希望した51部署の職員（549名）にLoGoチャットアカウントを配布し、庁外からの業務連絡の迅速化を図るなど、一定の業務について効率化に繋げることができた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
業務負担の軽減	LoGoチャット導入によって業務時間の削減につながったと答える職員の割合	80	%	DX推進課	6. チャットツールの活用
各年度の実績		51	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和7年3月にLoGoチャット利用者に対して実施したアンケート結果によると、業務時間の削減につながったと感じている職員の割合は、目標値には達しなかったものの、51%の職員は業務の改善に繋がっていると考えていることから、利用者に対して業務時間の削減事例を共有するなど、更なる活用のための取り組みを行う。					

7. ノーコード・ローコードツールの活用

取り組みの内容	R6年度	担当課
既存システムだけでは不足しているような業務についての効率化を行うためにノーコードローコードツールを活用。	・ノーコードローコードツールの勉強会を実施 ・相談がある部署に対して担当職員と一緒に活用を推進	DX推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
ノーコードローコードツールの活用にあたっては、ツールに関する一定のスキルが必要であるため、専門事業者による講習や委託・内製構築時の相談窓口の設置といった支援体制を整備する。	ノーコードローコードツール（kintone）研修を実施し、56名の職員が参加した。また、研修会後、相談があった9部署について伴走支援を実施し、調達事務における質疑集約の効率化などを含め6件の業務改善に繋がった。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
アプリケーション数	ノーコードローコードツールを活用して業務改善を行うことができた数	10	数	DX推進課	7. ノーコード・ローコードツールの活用
各年度の実績		9	数	備考	
【施策指標の分析 R6】 さまざまな業務について改善の検討を行ったが、内製によるツールの活用を想定していた業務の一部において、ツールが複雑化することにより、構築や運用面に課題があったため、利用開始まで至らなかった業務があることなどが目標値を下回った要因として挙げられる。今後は、継続した職員のスキルアップや、事前の業務フローの見直し、ツール活用の適否の見極め等を行う。					

8. 音声文字起こしツールの活用

取り組みの内容	R6年度	担当課
議事録の作成に活用可能な音声文字起こしツールを導入し、全庁的に利用可能な環境を整備する。	大阪府下共同調達により新たな製品を導入	DX推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
利用実績や利用者アンケートに基づき、製品や導入規模を最適化する。また、研修やマニュアルの充実化による利用の拡大を図る。	大阪府下共同調達により新たな製品を導入し、業務時間を1,363時間削減した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
業務負担の軽減	音声文字起こしツール導入によって削減された業務時間数	1,800	時間	DX推進課	8. 音声文字起こしツールの活用
各年度の実績		1,363	時間	備考	
【施策指標の分析 R6】 音声文字起こしツールを利用する際には申請が必要となることや、周知が不十分だったことが目標に至らなかった要因として挙げられる。今後は音声文字起こしツールの活用についての定期的な周知や研修・マニュアル等を充実させるなど、更なる活用のための取り組みを行う。					

9. 障害区分認定調査等の業務効率化

取り組みの内容	R6年度	担当課
ICT技術を活用し、障害者手帳の交付や精神通院等の自立支援医療の申請時の混雑を緩和するとともに、認定調査の際の業務負担を軽減。	・タブレットの導入による窓口でのサービスの制度説明の統一化・明確化 ・認定調査時の業務工程を簡略化	障害支援課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
認定調査でタブレットの活用を進めていくことで、業務効率化につながるよう取り組みを進める。また、窓口説明用タブレットについては、今後、窓口の混雑解消につながるよう、タブレットを使用した説明方法について、更にブラッシュアップを図っていく必要がある。	・DX推進課から貸与を受け、2月に認定調査用タブレット4台を導入し、調査票の作成での活用を始めた。 ・11月に、窓口説明用タブレット6台を導入し、制度説明の標準化を図った。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

10. 粗大ごみ等戸別収集予約受付システムの改善

取り組みの内容	R6年度	担当課
市民サービスのさらなる維持向上に向け、粗大ごみ等戸別収集予約受付システムを改善。R7年度が本システムの更新年度にあたるため、現行のインターネット受付システムをより使いやすいものに改善し、利用率の向上を目指す。	インターネット受付システムの更新	環境事業課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和7年度運用開始の契約が不調となり、現行システムの延長となったため、令和8年度の更新に向けて、インターネット受付を含む粗大ごみ等戸別収集予約受付システムをより使いやすいものに改善し、利用率の向上を目指す。	業者選定入札が不調となり更新に至らなかった為、次年度の更新に向けて準備を行った。	
年度ごとの達成状況	△	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
粗大ごみ戸別収集のインターネット予約受付率	粗大ごみ戸別収集のインターネット予約受付件数／粗大ごみ戸別収集の予約受付件数	51.5	%	環境事業課	10. 粗大ごみ等戸別収集予約受付システムの改善
各年度の実績		52.9	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 インターネット受付の改善は進まなかったが、高齢者向けの「スマホ教室」や移動式拠点回収及びイベント等でインターネット受付PRのポケットティッシュ・チラシ・操作マニュアルを配布し、利用促進を図った結果、予想以上の効果が得られた。					

11. 情報システム標準化・共通化の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
ベンダロックイン解消、行政運営の効率化、コスト削減等を目的としたシステムの標準化・共通化について、令和7年度未までに対象の20業務を標準化システムへ移行させるため、システム各所管課との調整や各システムが共通的に利用する基盤や機能について必要な作業を実施。	各システムが共通的に利用する基盤や機能の構築	DX推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
新たに一部のシステムで移行時期が予定より遅れる見通しとなった（法定の期限を超過することについて国に報告済）。 令和7年度は各システムの移行作業が本格化。連携データのバージョンといったシステム間での相違に係る調整を行いつつ、対応を進める。	各システムが共通的に利用する基盤や機能の構築を行ったが、一部でシステム開発の遅れが生じており、令和7年度に作業がずれ込む見込みである。	
年度ごとの達成状況	△	

※関連指標なし

12. デジタル技術等を活用したスマートシティの推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
地域課題の解決や市民のウェルビーイングの向上、新たな価値創造に向けて、産官学民の共創によるスマートサービスの導入を進める。	デジタル技術等の導入の可能性検討	政策推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・市の課題の洗い出し、本市が目指すべくスマートシティのあり方を検討する必要がある。 ・実証を実装へと進めるため、研究会等の組織体制の構築を進める必要がある。	・モビリティの実証実験を2件実施し、ニーズ調査等により可能性検討を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
スマートサービス導入の可能性検証の件数	市内で展開されるデジタル技術等の社会実験の延べ件数	6	件	政策推進課	12. デジタル技術等を活用したスマートシティの推進
各年度の実績		6	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 2件のモビリティの実証実験を、ひらかた万博PRイベントの会場で実施したことで、多数の方からモビリティに対する意見をもらうことができた。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

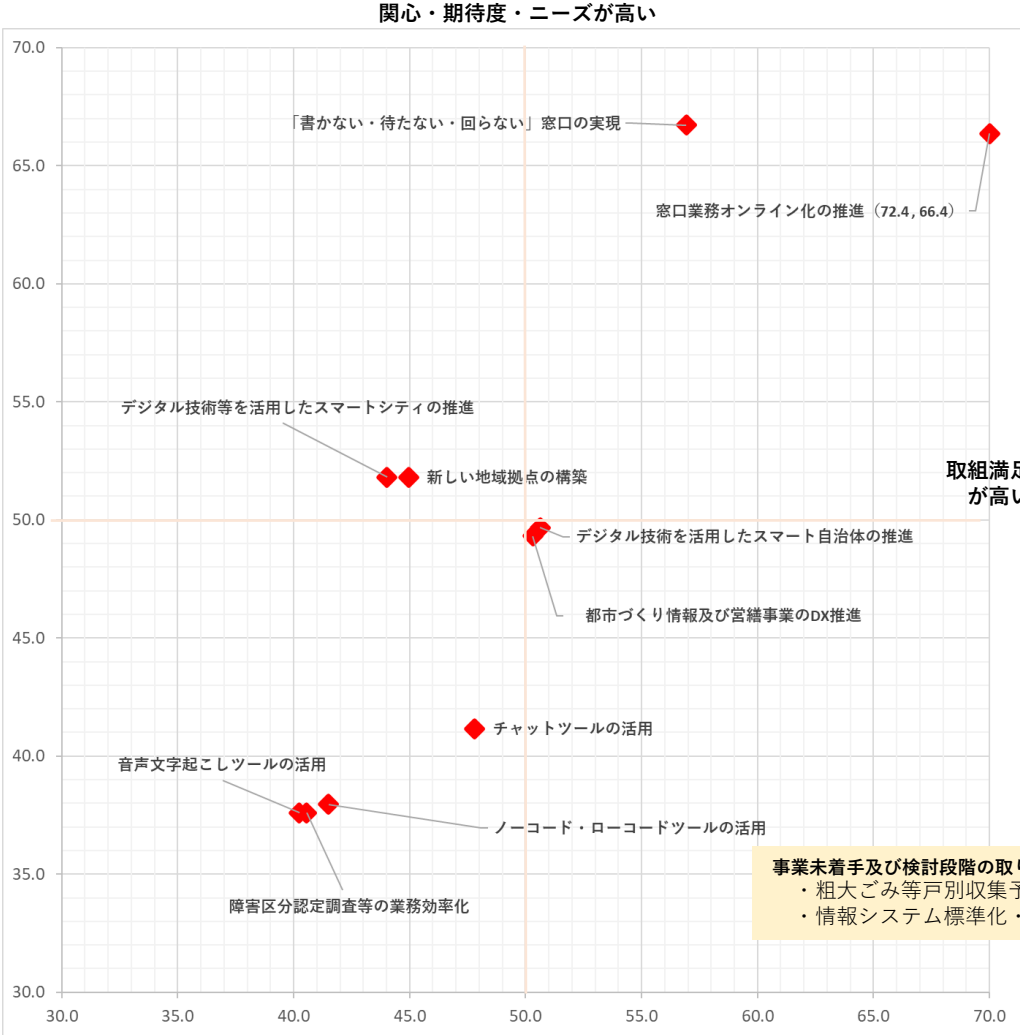
行政に対し意見を言う場が確保されている
29_02 DXの推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
24.2%	26.7%	49.1%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
50.4%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『行政に対し意見を言う場が確保されている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『29_02 DXの推進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

事業未着手及び検討段階の取り組み

- ・粗大ごみ等戸別収集予約受付システムの改善
- ・情報システム標準化・共通化の推進

施策の分析

- ・「2. 窓口業務オンライン化の推進」、「3. 「書かない・待たない・回らない」窓口の実現」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高く、令和6年9月の枚方市駅市民窓口センターの開設が影響していると思われる。
- ・「1. 都市づくり情報及び営繕事業のDX推進」、「4. デジタル技術を活用したスマート自治体の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「5. 新しい地域拠点の構築」、「12. デジタル技術等を活用したスマートシティの推進」の関心・期待度・ニーズは平均的であり、取組満足度は低い。
- ・「6. チャットツールの活用」、「7. ノーコード・ローコードツールの活用」、「8. 音声文字起こしツールの活用」、「9. 障害区分認定調査等の事業効率化」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。
- ・「10. 粗大ごみ等戸別収集予約受付システムの改善」、「11. 情報システム標準化・共通化の推進」については、取り組みを進めているが、遅れが生じている。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策自体が市民の目に触れにくいこともあり、満足度が低くでているが、DX推進に向けて計画に基づく取り組みを進める。
- ・施策全体の方向性としては、引き続き、市民ニーズの複雑化に伴う自治体業務の拡大に対応するため、スマート自治体の実現をより一層推進し、業務時間の削減及び利用者の利便性向上に向けた取り組みを推進していく。
- ・「6. チャットツールの活用」については、庁内ニーズや利用状況も踏まえ、指標の目標値について検討を行う。
- ・「7. ノーコード・ローコードツールの活用」については、庁内ニーズや利用状況も踏まえ、取り組みの内容を検討する。
- ・DXを推進する一方で、デジタル技術の使用が困難な市民への窓口の需要も一定数あるため、検討が必要である。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・スマートシティは掛け声だけになっているので、実質化を目指した動きを始める必要がある。デジタルデバイドは解消されていないが、同時にデジタル機器の利用は進んでいるため、DX推進を止めてはならない。部分的にはAIを活用されているが、さらに研究を進め実用化していく必要があり、職員の学習を必要としないDX化を目指す中でもAIが欠かせない。
- ・DX導入を推進させることで、業務効率を高めていただきたい。それにより人的コストも節約することが可能ではないか。
- ・市民にとっても「手続きが便利になった」という実感が、市民満足度の前年度よりも数値が高くなっていることにも表れている。マトリクス分析でも、市民が実感しやすい「「書かない・待たない・回らない」窓口の実現」「窓口業務オンライン化の推進」は関心・期待・ニーズが高く、今後もサービスの量・質ともに向上・維持されることを期待する。
- ・満足度としての評価は難しいが、DX推進による業務時間の削減は、新たな市民ニーズへの対応やより質の高い事業の推進に資するものであるため、引き続き、取り組んでいただきたい。
- ・枚方市駅市民窓口センターは駅直結ということや、センターの居心地の良さ、窓口担当者の方の気持ちのよい対応など、良い印象である。なお、手続きに要する時間を施策指標として設定している点は、施策に対して前向きに取り組んでおり、とてもすばらしいと思う。
- ・当該施策の中には、市民に向けてのサービスの向上に加え、職員の業務の効率化も含まれており、枚方市の益々の発展に寄与できる施策の一つである。なお近年は、AIを使って報告書を作成するなど、業務の効率化としてAI活用も導入されるケースが増えているが、市の活用度合いはいかがか。利便性と並行して個人情報等の機密事項などについては庁外に流出することがないようなセキュリティも検討することが重要である。

1. 施策の概要

施策シート[30_01]

市長公室、健康福祉部

施策名称		市民などによるまちづくり活動の活性化				
総合計画体系	基本目標等	計画推進				
	施策目標等	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します				
めざす姿（主観的満足度）		市民によるまちづくり活動が活発である				
概要		ネットワークづくりの場の提供、若手を中心とした新たな担い手の育成を図る。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		
	R9年度		R10年度		R11年度	
	R12年度		R13年度		R14年度	
	R15年度		R16年度		R17年度	
	R18年度		R19年度		R20年度	

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度28.5%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、36.6%である。最も低いのは、19歳以下で18.8%であった。
- ・地域活動やNPO活動に参加している人ほど満足度が高い傾向にあり、NPO活動の参加者では54.8%となっている。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど満足度が高い傾向にある。
- ・昨年度と比較すると全体では、5.5ポイント増加したが、若者世代（24歳以下）で25ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「1. NPO活動の支援」に関連する「ボランティア体験事業参加者数」は、目標値を達成している。その他の「3. 民生委員のなり手不足の解消」に関連する「枚方市民生委員・児童委員の充足率」や、「自治会等加入世帯率」、「市内NPO、ボランティアの団体数」、「特定非営利活動法人（NPO法人）の法人数」については、目標未達成となっている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. NPO活動の支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
ひらかた市民活動支援センターと連携し、市民やNPO、市民団体等の市民活動が活性化することを目的として、サブリ村野を拠点に市民活動の情報を収集・発信。 また、市民活動の担い手不足解消のため、ボランティア・市民活動への参加のきっかけを提供し、人材を育成。	ひらかた市民活動支援センターと連携し、若者の参画を推進	市民活動課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
市民活動の担い手不足が課題となっているため、ひらかた市民活動支援センターと連携し、ボランティア・市民活動への参加のきっかけを提供することで、担い手の確保に向け取り組む。	ひらかた市民活動支援センターと連携し、若者の参画を推進するために、若者を対象とした「ボランティア体験事業」を学生の夏休み・春休み期間に実施した。（ボランティア体験事業参加者数 470人）	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ボランティア体験事業参加者数	若者を対象とした「ボランティア体験事業」の参加者数	240	人	市民活動課	1. NPO活動の支援
各年度の実績		470	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 ボランティア体験事業の参加者数については目標値を大きく上回り、多くの若者に実際のボランティアを体験してもらうことができた。					

2. コミュニティ活動の支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
地域の活性化に資する活動を行い、地域住民の連携促進や安全・安心で魅力ある地域づくりを推進する校区コミュニティ協議会の自主的な活動を支援。	枚方市コミュニティ連絡協議会と連携し、地域活動の活性化を推進	市民活動課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
コミュニティ・自治会運営に対する課題を把握し、枚方市コミュニティ連絡協議会と連携し、地域の課題に対する情報交換に取り組んでいく。	枚方市コミュニティ連絡協議会の各ブロックにおいて、コミュニティ・自治会運営における課題である「新たな担い手不足」や「役員への業務の集中」についての意見交換を行い、3月に全校区コミュニティ協議会に情報共有を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

3. 民生委員のなり手不足の解消

取り組みの内容	R6年度	担当課
民生委員・児童委員のなり手不足解消に向けて、民生委員・児童委員の負担軽減策に取り組み、令和7年度の一斉改選では、前回の結果を少しでも上回るものになるよう進めていく。	民生委員・児童委員の負担軽減策の取り組みを推進	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
民生委員・児童委員の負担となっている課題を把握し、枚方市民生委員児童委員協議会と連携して課題解決に向けた取り組みを進める。	WEB上で会議資料の閲覧やスケジュールを確認することができる民生委員専用WEBサイトを導入し、民生委員活動の負担軽減を図った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
枚方市民生委員・児童委員の充足率	12月1日時点の枚方市民生委員・児童委員の充足率	86	%	健康福祉政策課	3. 民生委員のなり手不足の解消
各年度の実績		85	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 体調不良等による辞職者が相次いだため、目標値を達成することができなかったものの、欠員補充による新たな民生委員・児童委員及び主任児童委員を委嘱することができた。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
自治会等加入世帯率	自治会等に参加している世帯数／全世帯数	65	%	市民活動課	—
各年度の実績		62.7	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 自治会加入率は目標値を下回ったが、今後も継続して自治会加入促進チラシ及びリーフレットを配布する等、自治会加入促進に向け取り組んでいく。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市内NPO、ボランティアの団体数	ひらかた市民活動支援センター、サブリ村野NPOセンター及び枚方市ボランティアセンターの登録団体数	460	団体	市民活動課	—
各年度の実績		435	団体	備考	
【施策指標の分析 R6】 市内で活動するNPO及びボランティア団体数について目標値を下回ったが、今後も継続して市内の市民活動の活性化につなげるため、ひらかた市民活動支援センターと連携する等、登録団体数の増加を図っていく。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
特定非営利活動法人（NPO法人）の法人数	市内にのみ事務所を有する特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けている法人数	107	法人	市民活動課	—
各年度の実績		94	法人	備考	
【施策指標の分析 R6】 市内にのみ事務所を有する特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けている法人数について、解散や認証取消等の理由により減少したため、目標値を下回ったが、今後も継続して市民活動団体に対する社会的信用性の付与や活動の円滑化を図るため、法人化の手続きに関する支援を行っていく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

市民によるまちづくり活動
30_01 市民などによるまちづくり活動の活性化

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
28.4%	17.7%	53.8%
「決め手となった取り組みはない」と回答した人		
58.3%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『市民によるまちづくり活動』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『30_01 市民などによるまちづくり活動の活性化』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「2. コミュニティ活動の支援」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「1. NPO活動の支援」の取組満足度は平均的であるものの、関心・期待度・ニーズは低い。
- ・「3. 民生委員のなり手不足の解消」の関心・期待度・ニーズは平均的であるものの、取組満足度は低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、今後の地域活動の担い手である若者世代（24歳以下）への働きかけを積極的に行うとともに、市民活動に興味関心を持つ市民に対して、参加のきっかけづくりを推進していく。
- ・施策の目的達成に向けて、関心・期待度・ニーズと取組満足度とともに高い「2. コミュニティ活動の支援」について、取り組みを継続しつつ、若手の担い手確保や育成について、取り組みを検討する。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績も見られ、市民満足度も高いという結果になっているが、民生委員のなり手不足は大変な問題である。
- ・民生委員の高齢化に加え、業務量・業務内容などの理由からも、なり手を確保することが難しいことを実感している。そのため、民生委員の方々の業務をサポートする住民の方（サポーター）の検討が今後、求められてくるのではないかと。枚方市と民生委員の方々でサポーターを養成することにより、民生委員の方々の業務量の軽減になるかもしれないし、サポーターの方々も「地域貢献活動はしたいが時間にある程度の制約がある」場合でも手を挙げやすくなるのではないかと。
- ・組織に属していない個人や特定非営利活動法人とは別の法人格を持った団体が公共的な活動に取り組むことが増えており、「市内NPO、ボランティア団体数」「特定非営利活動法人(NPO法人)の法人数」だけで、市民などによるまちづくり活動の活性化の度合いを判断することは難しいのではないかと。公共的な活動に取り組む意欲のある個人・組織(法人格を問わない)に対する支援や市民活動支援の拠点である「サプリ村野NPOセンター」の利活用をより推進するべきではないかと。
- ・ボランティア体験事業は、学生・市民共にまだ周知が足りず、マッチングがスムーズとは言えないのではないかと。マッチングアプリ的な手法の援用が期待される。
- ・市民が自主的・積極的に市民活動へ参画していくように、情報発信を行っていただきたい。
- ・まちづくり活動の活性化には、新陳代謝が必要である。組織を若手の顔が見えるような、フラットな「場」へ再構成する取り組みが求められる。同時に、地域共同体とはいかにあるべきかの視点が、取り組む姿勢の根底になければならない。
- ・市民の活動は現状維持の状況であるが、今後は、じり貧の可能性もある。市民の関心を喚起して、活動を促す取り組みが必要。地域の活動などにも新たに入ってくる層もあり、可能性を広げること、既存の組織の運営を見直していくことも重要か。
- ・これまでの活動層が限界にきていることもあり、新たな担い手による新しい活動領域や手法を探索する必要がある。NPOやボランティア、コミュニティ活動にもそうした芽がある。趣味や楽しみの中に、可能性を見出していくこともできるのではないかと。

1. 施策の概要

施策シート【31_01】

市長公室、総合政策部、総務部

施策名称		行財政改革の推進			
総合計画体系	基本目標等	計画推進			
	施策目標等	31.持続可能な行財政運営を進めます			
めざす姿（主観的満足度）					
概要		実施事業の見直し・改善、選択と集中の視点を踏まえた効率的・効果的な予算編成と執行、さらなる財源確保に取り組む。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度			R8年度
	R9年度				
	1. ネーミングライツの推進 ○募集条件の見直し				
	2. 公有地の売却推進				
	3. 新たな財源確保策の検討				
4. ふるさと納税制度のより一層の推進					
5. 企業版ふるさと納税制度のより一層の推進					
6. 公民連携の推進					
7. 計画的な財政運営					
8. 公共空間の活用など、規制緩和を促進					
9. 行財政改革プラン2024の推進					
10. 保険料の徴収強化					
11. 非強制徴収債権の適正な管理・回収					

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

※施策としての満足度設定なし

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

・施策の進捗としては全体として、概ね計画通りに進めることができおり、「2. 公有地の売却推進」、「3. 新たな財源確保策の検討」など施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

・「公民連携事業の実施件数」、「公民連携を通じて行政の課題解決につながった件数」は目標値を達成している。一方で、財源確保に関連する指標については未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. ネーミングライツの推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
市が保有する資産を有効活用し財源確保を図るため、ネーミングライツを推進する。	募集条件の見直し等	財産活用課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
これまで応募がなかった施設について、新規施設と合わせて一斉募集を行う。また、より多くの施設で契約締結ができるよう、一斉募集に向けてPRパンフレットを更新し、積極的な情報発信に取り組む。	これまで応募がなかった施設等について、募集条件（ネーミングライツ料、パートナーメリットなど）の見直しを行った。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ネーミングライツ導入施設割合	ネーミングライツ募集施設数に対する導入施設数の割合	100	%	財産活用課	1. ネーミングライツの推進
各年度の実績		63	%	備考	
【施策指標の分析 R6】5施設で新たにネーミングライツを開始するとともに、現契約分で更新可能な施設について、更新を行った。また、令和7年度の一斉公募に向け、これまで応募がなかった施設等について、募集条件の見直しを行った。					

2. 公有地の売却推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
売却困難地の売却などを推進する。	・詳細調査 ・所管課との調整	財産活用課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
詳細調査を行った未利用地については、引き続き課題整理を進め、条件が整ったものから順次売却を実施する。	未利用地（3箇所）において所管課とともに試掘等の調査を行った。	
年度ごとの達成状況	△	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
「売却困難地」の売却件数	「売却困難地」の売却件数	8	件	財産活用課	2. 売却困難地の売却推進
各年度の実績		2	件	備考	
【施策指標の分析 R6】元山田小学校関連用地については一般競争入札による売却を行った。また、都市計画道路牧野長尾線整備事業残地の一部についても課題整理のうえ一般競争入札による売却を行った。					

3. 新たな財源確保策の検討

取り組みの内容	R6年度	担当課
新たな財源確保策の検討を進める。	・他市事例の調査研究 ・所管課との調整 ・市有施設の現状調査 ・所管課との調整・協議	財産活用課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
新たな財源確保策として、引き続き他市事例の調査・研究を幅広く行う。また、その中で効果が見込まれるものについては、施設の現状調査等を行ったうえで民間事業者に提案を募る。	庁舎施設等における宅配ロッカーの設置に係る他市照会など、財源確保策についての調査・研究を行った。	
年度ごとの達成状況	△	

※関連指標なし

4. ふるさと納税制度のより一層の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
ふるさと納税制度の効果的な活用による自主財源の確保に向け、インターネット広告を活用した積極的PRを展開するなど寄附の受け入れ拡大に向けて取り組みを強化。	・WEB広告等を活用したプロモーション強化 ・返礼品提供事業者の開拓	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和7年度はポータルサイトでのポイント付与が9月末で終了し、寄附のピークが前倒しになると想定されることから、寄附のピーク時期を逃さないよう、令和7年度早期からプロモーション業務委託事業者を活用した積極的なPRを展開する必要がある。	WEB広告を展開するとともに、庁内連携等により新たに85品の返礼品を開拓した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ふるさと納税による寄附金受入額	市窓口またはふるさと納税ポータルサイトを通じて、市外の個人が本市へ寄附をされた総額	350,000	千円	広報プロモーション課	4. ふるさと納税制度のより一層の推進
各年度の実績		281,245	千円	備考	
【施策指標の分析 R6】 WEB広告等の展開等により、寄附受入れ額は対前年度比で約40%増を達成。目標の3億5,000万円に到達はできなかったが、引き続き寄附額拡大を目指し、取り組みを進める。					

5. 企業版ふるさと納税制度のより一層の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
・様々な事業の原資となり得る企業版ふるさと納税による寄附獲得に向けPR。	・企業版ふるさと納税の寄附獲得に向けたPR	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
さらなる寄附獲得に向けては、積極的な営業活動にあわせて、企業に対し具体的な寄附対象事業を示し、プロジェクトへの共感を生み出す形での働きかけが必要となる。	寄附獲得に向けた多方面での取り組みを進め前年度比で増額を達成した。 (企業版ふるさと納税による寄附金受入額 約29,000千円)	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
企業版ふるさと納税による寄附金受入額	各年度ごとの企業版ふるさと納税により寄附された金額の総額	50,000	千円	広報プロモーション課	5. 企業版ふるさと納税制度のより一層の推進
各年度の実績		28,989	千円	備考	
【施策指標の分析 R6】 民間企業での営業経験をもつ副業人材のアドバイザー登用により、企業への働きかけを強化したことで、18の事業者から寄附を収受し、寄附受入れ額は対前年度比で約20%増を達成。引き続き、庁内連携のもと本市とゆかりのある企業へのアプローチを積極的に展開し、新たな企業の発掘にも引き続き取り組む。					

6. 公民連携の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
・行政課題の解決に繋げるため、公民連携プラットフォームの運営などにより公民連携を促進。 ・庁内意識醸成に向けた公民連携セミナー・ワークショップの実施。	・公民連携プラットフォームの運営 ・効果的な公民連携セミナー等の検討及び実施	政策推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・公民連携プラットフォームの機能について、ひらかた万博共創プラットフォームの成果等を踏まえた整理や拡充を検討する必要がある。 ・庁内での意識醸成については、効果的に行うため、対象や手法を検討していく。	・公民連携プラットフォームを中心とした対話で22件の連携取組に着手した。 ・主査、主任向けの公民連携研修を開催した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
公民連携事業の実施件数	各年度に公民連携による事業に着手した件数	20	件	政策推進課	6. 公民連携の推進
各年度の実績		22	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 積極的に民間事業者との対話を行い、過去の年度と同水準で新たな事業に着手できている。					
公民連携を通じて行政の課題解決につながった件数	公民連携プラットフォーム等を活用して公民連携に取り組むことで、行政の課題解決や市民サービスの向上につながった取組件数	5	件	政策推進課	6. 公民連携の推進
各年度の実績		8	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 副業人材の活用や、メタバース空間の活用の試行など様々な事業に取り組み、課題や改善点の把握や施策の改善に取り組むことができた。					

7. 計画的な財政運営

取り組みの内容	R6年度	担当課
健全な財政状況を維持するため、長期財政収支の見通しを明らかにし、収支均衡を基本としながら、地方債残高など将来負担に留意した計画的な財政運営を推進。	・「長期財政の見通し」の見直し ・一般会計等財務書類4表だけでなく、一般会計等に地方公営事業会計を加えた全体財務書類4表、全体財務書類に外郭団体等を加えた連結財務書類4表の作成 ・財務書類について、毎年発刊の「枚方市の財政事情（第2部）」における他団体比較	財政課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
健全な財政状況を維持するため、長期財政収支の見通しを明らかにし、収支均衡を基本としながら、地方債残高など将来負担に留意した計画的な財政運営を推進していく。	・令和7年2月に「長期財政の見通し」を見直し。 ・一般会計等財務書類4表だけでなく、一般会計等に地方公営事業会計を加えた全体財務書類4表、全体財務書類に外郭団体等を加えた連結財務書類4表を作成。 ・財務書類について、毎年発刊の「枚方市の財政事情（第2部）」における他団体比較を令和7年3月に公表。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
健全化判断比率	地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき算定する実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率	実質赤字比率：なし 連結実質赤字比率：なし 実質公債費比率：1.7%以下 将来負担比率：なし	%	財政課	7. 財政運営事業
各年度の実績		実質赤字比率：なし 連結実質赤字比率：なし 実質公債費比率：1.9% 将来負担比率：なし	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 今後も収支均衡を基本としながら、地方債残高など将来負担に留意した計画的な財政運営を推進していく。					

8. 公共空間の活用など、規制緩和を促進

取り組みの内容	R6年度	担当課
民間事業者からの提案などを踏まえた連携事業の実施にあたり、既存の規制等について柔軟な対応を検討のうえ、公共空間の活用などを促進	既存の規制等について柔軟な対応を検討	政策推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き、地域活性化の視点や活用主体の提案を踏まえながら検討を行う。	東部地域における古民家の活用（飲食店等）に関する民間事業者からの提案について、対話や調整を行った。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
東部地域の古民家活用につながった件数	東部地域において、既存の規制等について柔軟な対応により古民家の活用につながった件数（延べ）	1	箇所	政策推進課	8. 公共空間の活用など、規制緩和を促進
各年度の実績		1	箇所	備考	
【施策指標の分析 R6】 新たな施設の開設はなかったが、民間事業者や地元所有者との協議や対話を実施しており、引き続き取り組みを行う。					

9. 行財政改革プラン2024の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
個別改革課題の着実な達成に向け、取り組み年度中(12月頃)に進捗状況を確認・検証。	「行財政改革プラン2024」の個別改革課題の進捗管理	行革推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き、個別改革課題の着実な達成に向け、進捗状況の確認・検証を行っていく。	個別改革課題の進捗状況（見込み）を確認・検証のうえ、同プラン別冊を改定し、令和7年3月に公表した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
「行財政改革プラン2024」の改革課題の達成率	「行財政改革プラン2024」における個別改革課題達成数／全体の課題数	1	%	行革推進課	9. 行財政改革プラン2024の推進
各年度の実績		3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 2件の個別改革課題について達成することができた。次年度以降も目標の達成に向けて着実に取り組みを進めていく。					

10. 保険料の徴収強化

取り組みの内容	R6年度	担当課
国民健康保険料・後期高齢者医療保険料・介護保険料の未納分について、差押などの滞納処分を実施。	財産調査の電子照会など、様々な取り組みにより効果的効率的な滞納処分に努める	保険納付課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き滞納処分の強化に取り組むとともに、特に国民健康保険料は、脱退勤奨など資格適性事務が収納率に影響するため、社会保険加入者の情報提供など担当課との連携を図っていく。	財産調査の強化などにより、差押の件数は、年度全体で、令和5年度の1,252件に対し、令和6年度は1,588件と上回った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
保険料収納率（現年度分）	国民健康保険料、後期高齢者医療保険料、介護保険料の現年度分収納率	・国保95.50 ・後期99.67 ・介護99.50	%	保険納付課	10. 保険料の徴収強化
各年度の実績		・国保95.25 ・後期99.76 ・介護99.61	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 後期保険料と介護保険料は目標値到達を上回った。色付き封筒による督促状・催告書を送付するなどの工夫を行った。国民健康保険料は昨年度を上回る差押を実施も、収納率は昨年度実績を下回った。引き続き滞納処分などに取り組むとともに、調定額減を図るため資格適性実施の担当課との連携にも取り組む。					

11. 非強制徴収債権の適正な管理・回収

取り組みの内容	R6年度	担当課
非強制徴収債権（私債権及び非強制徴収公債権）の未回収事案について回収強化を図る。	債権所管課から移管を受けた非強制徴収債権について、弁護士職員を活用し、積極的に支払督促を申し立てる等、適正な管理・回収に努める	債権回収課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
裁判所へ申立てを行って債務名義を取得しても必ずしも回収できるとは限らないため、どこまで費用と時間をかけて回収すべきか、判断していく必要がある。	6課9債権の移管を受けた。移管件数は54件で、うち完納件数は14件であった。また、支払督促や通常訴訟等29件を裁判所へ申立てた。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

※施策としての満足度設定なし

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、健全な財政運営を行うため、行財政改革を徹底するとともに、さらなる財源確保を推進していく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

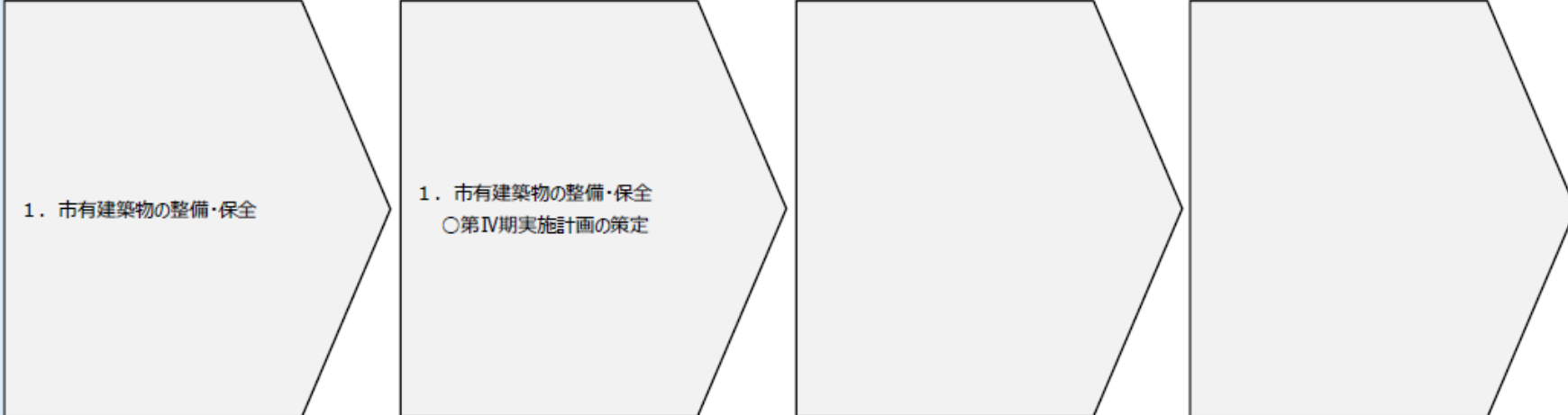
施策評価員による評価

- ・多くの改革に取り組んでいるが、目標を下回るものもあり、更なる取り組みが必要。効果的に目標を達成するためには、これまでのやり方を踏襲するだけでは、限界があるので、新たな工夫を組み入れた改革プランとすることも必要ではないか。
- ・内部評価が目標達成や施策進捗にとどまるのでは、新たな進展への貢献がない。評価結果を踏まえて改善点を検討し実施していくことが重要であり、そうした視点が全体的に弱いように思う。改革プランの着実な実行とともに、より効果的な改革に向けての年度ごとの改善を検討し実施していく、本来のPDCAを回していく発想を再度確認しておく必要があるのではないか。
- ・目標値にせまる、あるいは目標値を上回る実績も見られるが、施策指標が達成を見据えた設定になっているのかについていささか疑問に感じる。
- ・適切な行政サービスを維持するため、安定的な税収が不可欠であり、人口減少が予測される中で、住民税他の税収も減少する可能性がある。これらを補うために新たな財源を確保する取り組みを行っていただきたい。
- ・金額や達成率の目標がある取り組みについては、確実にその目標を達成するようにマネジメントを行うとともに、職員の意欲向上に資する評価の仕組みを検討いただきたい。
- ・様々な財源確保に取り組んでおられ、このような手続き一つひとつが、枚方市への市民の愛着や定着にもつながるのではないか。

1. 施策の概要

施策シート[31_02]

都市整備部

施策名称		市有建築物の管理コストの平準化・計画的な更新・改修			
総合計画体系	基本目標等	計画推進			
	施策目標等	31.持続可能な行財政運営を進めます			
めざす姿（主観的満足度）					
概要		市有建築物について、管理コストの平準化を図りながら、計画的に改修・更新を進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
					
	1. 市有建築物の整備・保全				
	1. 市有建築物の整備・保全 ○第IV期実施計画の策定				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

※施策としての満足度設定なし

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・ 施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・ 「実施計画に基づく更新工事件数」については、未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 市有建築物の整備・保全

取り組みの内容	R6年度	担当課
「市有建築物保全計画」に基づき、市有建築物施設の総合的かつ計画的に保全。	工事等の進捗管理	施設計画課、施設整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
今後も計画等に基づき、総合的かつ計画的に保全を進める。	・発注件数 32 ・実施件数 30	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
実施計画に基づく更新工事件数	実施計画に基づく各施設の更新工事を行った割合（※法定点検や施設状態を踏まえ実施時期を調整したものを含む）	100	%	施設計画課、施設整備課	1. 市有建築物の整備・保全
各年度の実績		93.7	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 入札が不調となったもの以外の工事を行った。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

※施策としての満足度設定なし

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・ 施策の方向性として、引き続き、「市有建築物保全計画」に基づいた総合的かつ計画的な保全を推進していく。

1. 施策の概要

施策シート【31_03】

総合政策部

施策名称		公共施設の最適配置			
総合計画体系 めざす姿（主観的満足度）		基本目標等 施策目標等	計画推進 31.持続可能な行財政運営を進めます		
概要		社会状況の変化やその利用需要の動向をふまえた最適な配置・活用を進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度	R9年度
	1. 公共施設マネジメントの推進 2. 旧中宮北小学校跡地活用事業		1. 公共施設マネジメントの推進 ○計画の改訂 2. 旧中宮北小学校跡地活用事業 ○跡地活用に係る実施設計		

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

※施策としての満足度設定なし

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・ 施策としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・ 指標については、測定可能な指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 公共施設マネジメントの推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
将来の人口構造や人口規模に合わせた公共施設の総量の適正化を図るため、公共施設全般に係る総合的かつ計画的なマネジメントを本市全体で統一、効率的に推進。	・前年度決算値に基づく施設評価の実施 ・公共施設マネジメント推進計画改訂を見据えた数値目標、施設評価手法、コスト等の検討	行革推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・公共施設マネジメント推進計画改訂に向け、次年度に計画改訂支援業務を委託し、より実効性のある施設評価手法を検討していく必要がある。	・前年度決算値に基づく施設評価を実施した。 ・公共施設マネジメント推進計画改訂に向けて、他自治体の事例調査や、総務省が実施する専門的な知識を有するアドバイザーによる支援を受けながら数値目標や施設評価手法、コスト等について検討し、次年度に委託する業務内容の精査を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市民一人当たりの延床面積	枚方市個別施設計画（総合編）の計画期間（R3～R8）における市民一人当たりの延床面積は現状の1.9㎡を維持する	1.9	㎡	行革推進課	1. 公共施設マネジメントの推進
各年度の実績		1.96	㎡	備考	
【施策指標の分析 R6】 人口減少の進行などにより市民1人当たりの延床面積は増加傾向にある。					

2. 旧中宮北小学校跡地活用事業

取り組みの内容	R6年度	担当課
旧中宮北小学校跡地の有効活用を行う。	旧中宮北小学校跡地活用に向けた検討	行革推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き、跡地活用全体イメージ案等について地域への意見聴取を行うとともに、学校用地内の市有地測量等も進めていく。	これまでの検討状況や地域からの意見・要望を踏まえた、旧中宮北小学校の跡地活用全体イメージ案をとりまとめるとともに、地域への説明を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
学校跡地活用による減床面積	学校跡地活用により減床した床面積	—	㎡	行革推進課	2. 旧中宮北小学校跡地活用事業
各年度の実績		—	㎡	備考	
【施策指標の分析 R6】 旧中宮北小学校跡地については、活用の方向性について検討段階であるため、指標の達成は各整備工事等に着手予定の令和9年度以降となる。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

※施策としての満足度設定なし

5. 評価を踏まえた今後の方向性

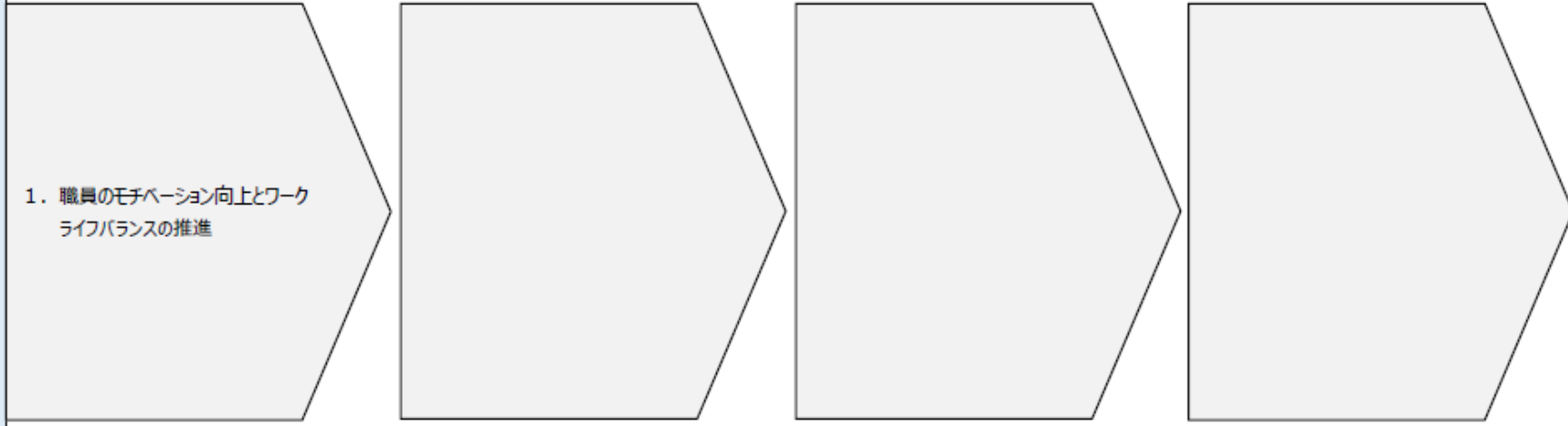
今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、人口構造の変化や社会経済の変化などを踏まえ、今後も公共施設の総量の適正化を図っていく。

1. 施策の概要

施策シート【31_04】

総務部

施策名称		組織体制の充実			
総合計画体系		基本目標等 施策目標等	計画推進 31.持続可能な行財政運営を進めます		
めざす姿（主観的満足度）					
概要		限られた人的資源を有効に活用しながら、状況の変化により柔軟かつ適切に対応できるよう、組織体制の充実を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度	R9年度
					

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

※施策としての満足度設定なし

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「長時間労働の縮減により創出した時間外勤務手当額の効果額」が令和6年人事院勧告による給料表の引上げの影響等により目標達成には至っていない。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 職員のモチベーション向上とワークライフバランスの推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
職員表彰制度などにより、職員のモチベーションの更なる向上を図るとともに、長時間労働の縮減やメンタルヘルス不調者の未然防止など、健康経営の取り組みを推進。	・職員表彰制度を活用し、職員のモチベーション向上につなげる ・長時間労働の縮減に向けた取り組みの継続 ・健康経営の推進の継続 ・人材育成基本方針の浸透	人事課、職員課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
職員アンケートより、「業務での功績について表彰されることにより、モチベーション向上につながるか」の問いに対する「とてもそう思う・そう思う・まあそう思う」の回答が79%であったことから、引き続き表彰制度の充実に取り組み、職員のモチベーション等の向上に努めていく。 また、今後も健康経営の取り組みを継続しながら、職員が働き続けやすい職場づくりを推進していく。	・市政貢献表彰を5件実施し、表彰式や懇談の様子を庁内報で周知することで、職員のモチベーション向上と職場内のチームワーク向上、他の組織への意識啓発に繋げた。 ・各種研修実施時に人材育成基本方針の職員の行動指針について説明するとともに、中間見直しに向けて人材育成に関するアンケートを実施した。 ・健康経営優良法人2025の認定を取得した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
長時間労働の縮減により創出した時間外勤務手当額の効果額	行財政改革プラン2020の最終年度である令和4年度における目標効果額に達しなかった実績を基に令和6年度の目標数値（令和4年度比較）を設定し、次年度以降、取り組みを推進させていく。	30,000	千円	人事課、職員課	1. 職員のモチベーション向上とワークライフバランスの推進
各年度の実績		△8,628	千円	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度に実施された大規模な機構改革、制度改正、長期休業者の発生などにより、時間外勤務時間数は前年度対比で微増となっていること、また、令和6年人事院勧告による給料表の引上げの影響（行政職給料表の平均改定率は約3%）もあり、目標の達成には至らなかった。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

※施策としての満足度設定なし

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策の方向性として、職員表彰制度などによる職員のモチベーションの向上とあわせて、健康経営の取り組みを推進することにより、組織体制の充実を図っていく。

1. 施策の概要

施策シート【31_05】

総合政策部、総務部

施策名称		個人情報の適正管理・セキュリティ対策の強化			
総合計画体系	基本目標等	計画推進			
	施策目標等	31.持続可能な行財政運営を進めます			
めざす姿（主観的満足度）					
概要		個人情報の適正管理・セキュリティ対策の強化を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 「ネットワーク3層の分離」の見直し 2. 個人情報保護の適正管理				
	R7年度				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

※施策としての満足度設定なし

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・ 施策としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができる。

【施策指標】

- ・ 指標についてはすべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 「ネットワーク3層の分離」の見直し

取り組みの内容	R6年度	担当課
自治体情報セキュリティ対策について、令和9年度に向けて「ネットワーク3層の分離」に係る見直しを検討。	国等のガイドラインの状況を踏まえながら情報セキュリティポリシー等に係る見直し及び継続的な運用	DX推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
国等のガイドラインについては今後も随時更新されていく予定のため、継続して情報収集を行いながら必要に応じて方向性を見直す必要がある。	ネットワーク構成検討に係る情報提供依頼（RFI）を実施し、5ベンダーより情報提供を受けて「ネットワーク3層の分離」の見直しについて方向性を整理した	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

2. 個人情報保護の適正管理

取り組みの内容	R6年度	担当課
保有個人情報保護及び安全管理等に関する研修を実施。	・個人情報保護に係る研修と効果測定を実施 ・各職場研修主担者が、研修を受講すべき人数（個人情報を取り扱う人数）と研修を受講した人数をコンプライアンス推進課へ報告。	コンプライアンス推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
[取り組み課題] 日常的に職員から基本的な問い合わせがあることから、個人情報保護制度についての職員の理解を深めることが課題である。 [今後の方向性] 例年3月に実施している個人情報保護に係る研修について、人事異動後に各部署での事務担当者が決まった後、すぐに実施することが望ましいことから、研修時期の前倒しを行う。また、研修の未受講者に対するフォローアップを行う。	・個人情報保護に係る研修と効果測定を令和6年11月に実施した。 ・各職場研修主担者より、研修を受講すべき人数（個人情報を取り扱う人数）と研修を受講した人数について報告を受けた。未受講者がいる場合は受講の完了までのフォローアップを行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
保有個人情報の保護に関する研修の受講率	研修を受講した人数／個人情報を取り扱う人数	100	%	コンプライアンス推進課	2. 個人情報保護の適正管理
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 研修を受講した人数／個人情報を取り扱う人数 2,708人／2,708人					
【施策指標の分析 R7】					
【施策指標の分析 R8】					
【施策指標の分析 R9】					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

※施策としての満足度設定なし

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、個人情報の適正管理・セキュリティ対策の強化を図っていく。また、事故発生危険性の危険性だけでなく実際に漏洩した場合の対応等についても学んでいく必要がある。

1. 施策の概要

施策シート[31_06]

総合政策部、総務部

施策名称		目標達成に向け意欲的に学び成長する職員の育成			
総合計画体系		基本目標等 施策目標等	計画推進 31.持続可能な行財政運営を進めます		
めざす姿（主観的満足度）					
概要		市民サービスの向上を図るため、目標の達成に向け意識的に学び成長していく職員の育成を進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度			R8年度
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

※施策としての満足度設定なし

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「職員提案件数」については、目標を達成している。
- 「職場研修必須科目の職場研修実施率」、「職員研修受講者の理解度」、「枚方市人材育成基本方針の理解度」、「個人情報の漏えい防止等セキュリティに関する研修参加率」については、未達成だが、目標には近づいている。
- 「職員研修受講者の満足度」については、未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 職員研修の充実

取り組みの内容	R6年度	担当課
求められている職員像に近づくための研修となるよう、研修の理解度の向上を図る。また、職員力の向上につなげるため、職員ニーズに対応した実効的な職場外研修を実施。	・研修実施時に、人材育成基本方針のいずれの行動指針の項目に基づくものが説明を行う ・研修後のアンケートにより、職員の理解度や行動変容をその都度確認していく ・研修後のアンケートにより、職員の研修満足度をその都度確認し、今後の研修計画や研修内容に活かす	人事課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
今後も理解度を100%に近づけていけるよう、研修計画の策定段階から、研修後の職員アンケートや効果測定等の結果を研修内容に活かしていく。	・全ての職場外研修において、人材育成基本方針のいずれの行動指針の項目に基づくものを研修時に説明を行い、求められる職員像を意識して研修を受講する環境を整えた。 ・研修後のアンケートにより、職員の理解度や満足度をその都度確認し、次年度の研修計画や外部講師との調整に活かした。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
職場研修必須科目の職場研修実施率	人事課において定めた必須テーマの研修に基づき、各課において職場研修を実施した職場の割合	100	%	人事課	1. 職員研修の充実
各年度の実績		98.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 DX研修及び人権研修を必須テーマとして設定し、各課で職場研修を実施した。目標達成に向けて、職場研修主担者が参加できない場合は、代理出席を可能とした。引き続き進捗管理を行い、未実施の課には年度内の実施を促していく。					
職員研修受講者の理解度	研修受講職員を対象に実施する事後アンケートにおいて、理解度を測る設問（5段階）に対して「よく分かった」「分かった」を選択した職員の割合	100	%	人事課	1. 職員研修の充実
各年度の実績		84.7	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 今後も理解度を100%に近づけていけるよう、研修内容に応じて、効果測定等を活用しながら研修を実施していく。					
職員研修受講者の満足度	研修受講職員を対象に実施するアンケートにおいて、満足度を測る設問（5段階）に対して「非常に満足」「満足」を選択した職員の割合	100	%	人事課	1. 職員研修の充実
各年度の実績		68.4	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 毎年度受講が必要な研修（評価者研修等）について、満足度が低い傾向があるため、アンケート結果等を参考にしながら、新たな気づきが得られるよう内容を工夫し、今後も満足度の向上に努める。					
枚方市人材育成基本方針の理解度	研修受講職員を対象に実施するアンケートにおいて、理解度を測る設問（4段階）に対して「十分理解」「ある程度理解」を選択した職員の割合	100	%	人事課	1. 職員研修の充実
各年度の実績		88.5	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 すべての研修時において、人材育成基本方針の行動指針との関連について説明を行った。今後もすべての職員が方針の内容を理解し、あるべき姿に近づいていけるよう、令和6年度に実施した本方針の中間見直しの内容なども含め、周知を図っていく。					

2. 職員提案の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
職員に対して自由な発想による提案を広く募るとともに、より一層のチャレンジ精神の醸成を目的に、優れた提案内容については、実現に向けた具体的検討の促進や市長表彰への推薦を実施。	・円滑な制度運用を行う ・職員のチャレンジを生かせる制度となるよう、適宜見直しに取り組む	行革推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
次年度は提案の「量」だけではなく、「質」にも着目し、今年度の制度見直しを踏まえて、試行実施に取り組んでいく。	・提案周知・募集から提案審査委員会に至るフローについて円滑な制度運用を実施した。 ・現状課題の分析を踏まえ、業務の生産性向上を主目的とする「スマートワーク」と、社会課題等に対応する事業の企画立案を募る「枚方みらい」の2区分を新設し、募集期間や審査フローの差別化などの制度見直しを図ったうえで、R7年度試行実施の内容を決定した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
職員提案件数	職員から応募のあった提案件数（年間）	10	件	行革推進課	2. 職員提案の推進
各年度の実績		18	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標を大幅に上回る18件の提案応募があった。					

3. 情報セキュリティ研修の実施

取り組みの内容	R6年度	担当課
職員の情報セキュリティ意識の向上に向け、個人情報漏えいをはじめとする情報セキュリティ侵害の事案や、事故発生危険性等、情報セキュリティ研修を実施。	情報セキュリティ全般に関する研修の実施	DX推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
形骸化している部分もあるため、研修の実施タイミングや内容については毎年度見直しを行うことで効果を継続していく。	メールで資料を配布する形で情報セキュリティ全般に関する研修を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
個人情報の漏えい防止等セキュリティに関する研修参加率	個人情報の漏えい防止等セキュリティに関する職員対象の研修参加者数／全職員	100	%	DX推進課	3. 情報セキュリティ研修の実施
各年度の実績		89	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・セキュリティに関する研修を資料配布により実施し、受講報告については理解度測定も兼ねて、LoGoフォームにより報告を受けることで、セキュリティへの周知啓発を行った。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

※施策としての満足度設定なし

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性として、意識的に学び成長していく職員の育成に向けて、研修等の内容を見直したうえで着実に実施していくとともに、提案制度については、試行実施における評価・検証をしっかりと行ったうえで、次年度以降の制度改善につなげていく必要がある。

1. 施策の概要

施策シート[32_01]

環境部

施策名称		広域連携			
総合計画体系	基本目標等	計画推進			
	施策目標等	32.自治体間の広域連携や地方分権の推進を図ります			
めざす姿（主観的満足度）					
概要		周辺自治体との連携・協力による効率的・効果的な行政サービスの提供を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 可燃ごみ広域処理施設の整備 2. 交野市等との共同処理実施				
	R7年度				
	1. 可燃ごみ広域処理施設の整備 ○施設の稼働開始				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

※施策としての満足度設定なし

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・ 施策としては、すべての取り組みが計画どおりに進めることができている。

【施策指標】

- ・ 指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 可燃ごみ広域処理施設の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
京田辺市と連携しながら枚方京田辺環境施設組合による可燃ごみ広域処理施設の整備を推進。	施設の建設	循環型社会推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・可燃ごみ広域処理施設の整備が円滑に進むよう取り組む必要がある。 ・引き続き、京田辺市及び枚方京田辺環境施設組合と連携しながら令和7年度中の施設の稼働開始を目指す。	施設の建設が計画的に進められた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
整備事業の進捗率	可燃ごみ広域処理施設の整備事業の進捗率	89	%	循環型社会推進課	1. 可燃ごみ広域処理施設の整備
各年度の実績		89	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 可燃ごみ広域処理施設の整備事業については計画通りの進捗となった。 引き続き、京田辺市及び枚方京田辺環境施設組合と連携しながら令和7年度中の進捗率100%を目指し、取り組んでいく。					

2. 交野市等との共同処理実施

取り組みの内容	R6年度	担当課
交野市等との広域連携について協議を行いながら共同処理の実現に向け推進する。	・共同処理の可能性について検討 ・共同処理に係る協議	希釈放流センター
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き広域連携について、協議・検討を行う。	共同処理の可能性について検討し、関係各所との協議を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
共同処理に係る協議の進捗率	交野市等との広域連携に向けた共同処理に係る協議の進捗率	12	%	希釈放流センター	2. 交野市等との共同処理実施
各年度の実績		12	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標達成に向けて、予定どおり進行中である。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

※施策としての満足度設定なし

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、周辺自治体との連携・協力による効率的・効果的な行政サービスの提供を図るため、引き続き、関係団体と連携しながら進捗率100%を目指し、取り組んでいく。